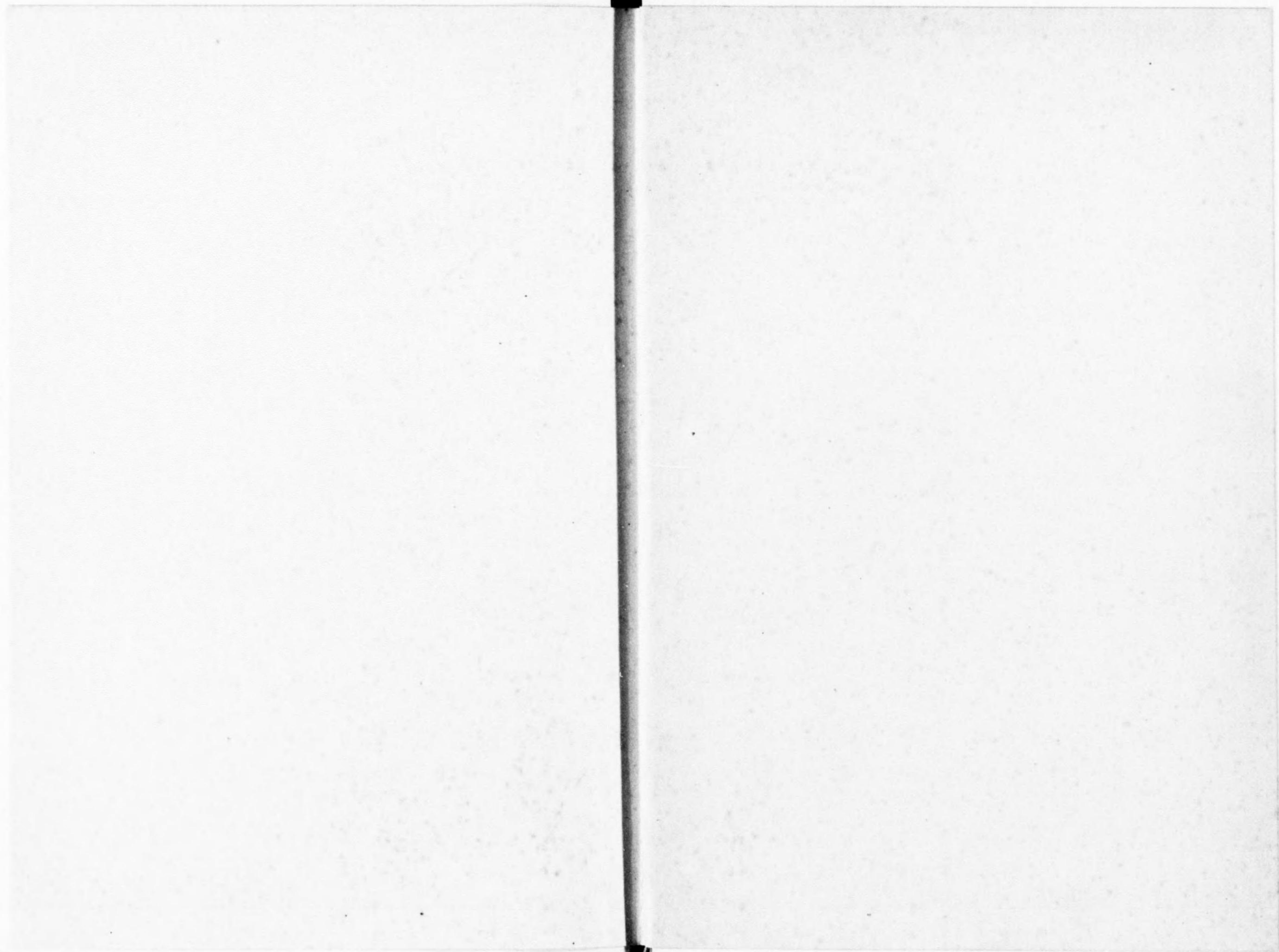


始



A



行幸記念誌

375
~~68~~
7

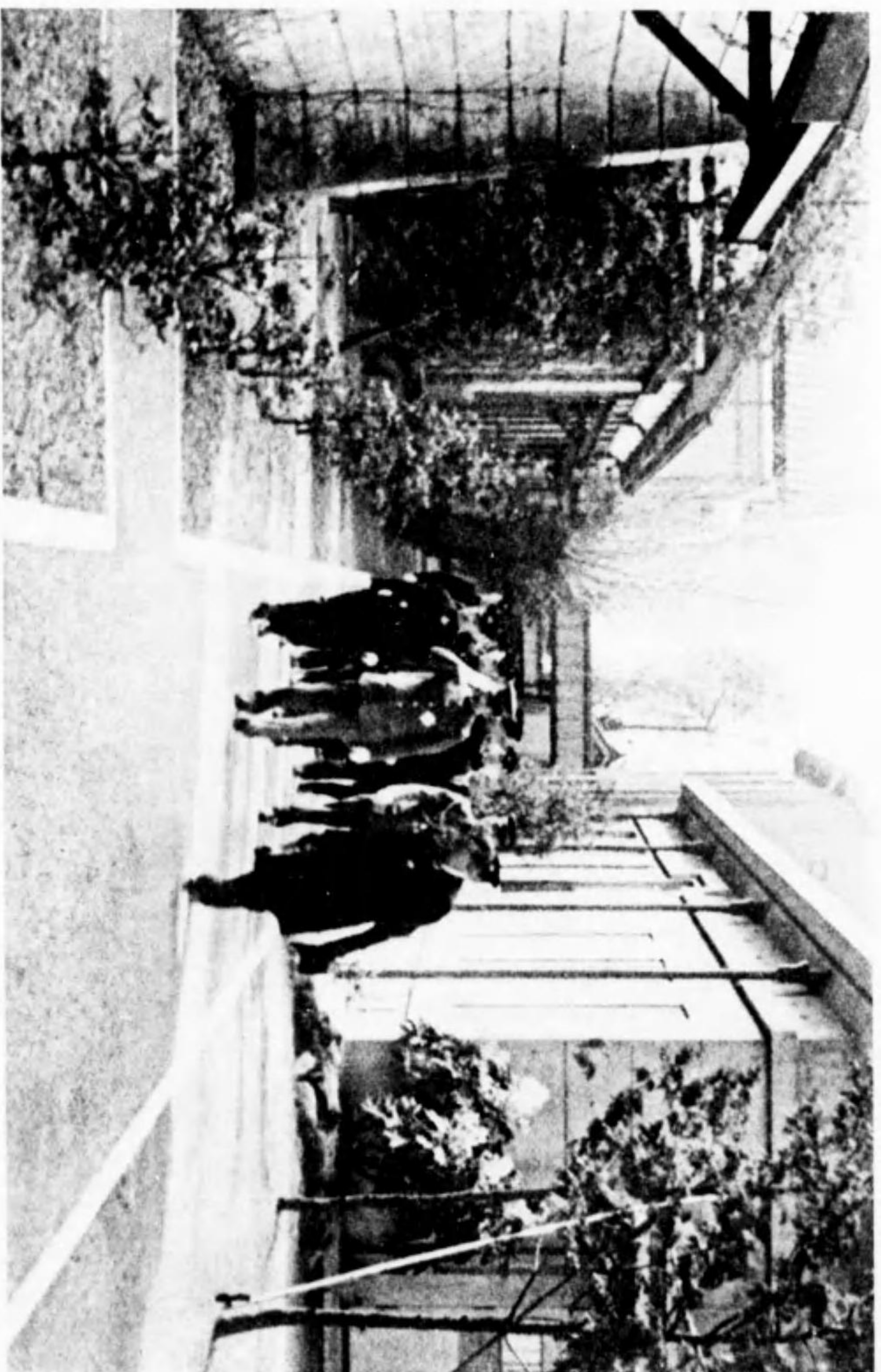


141481

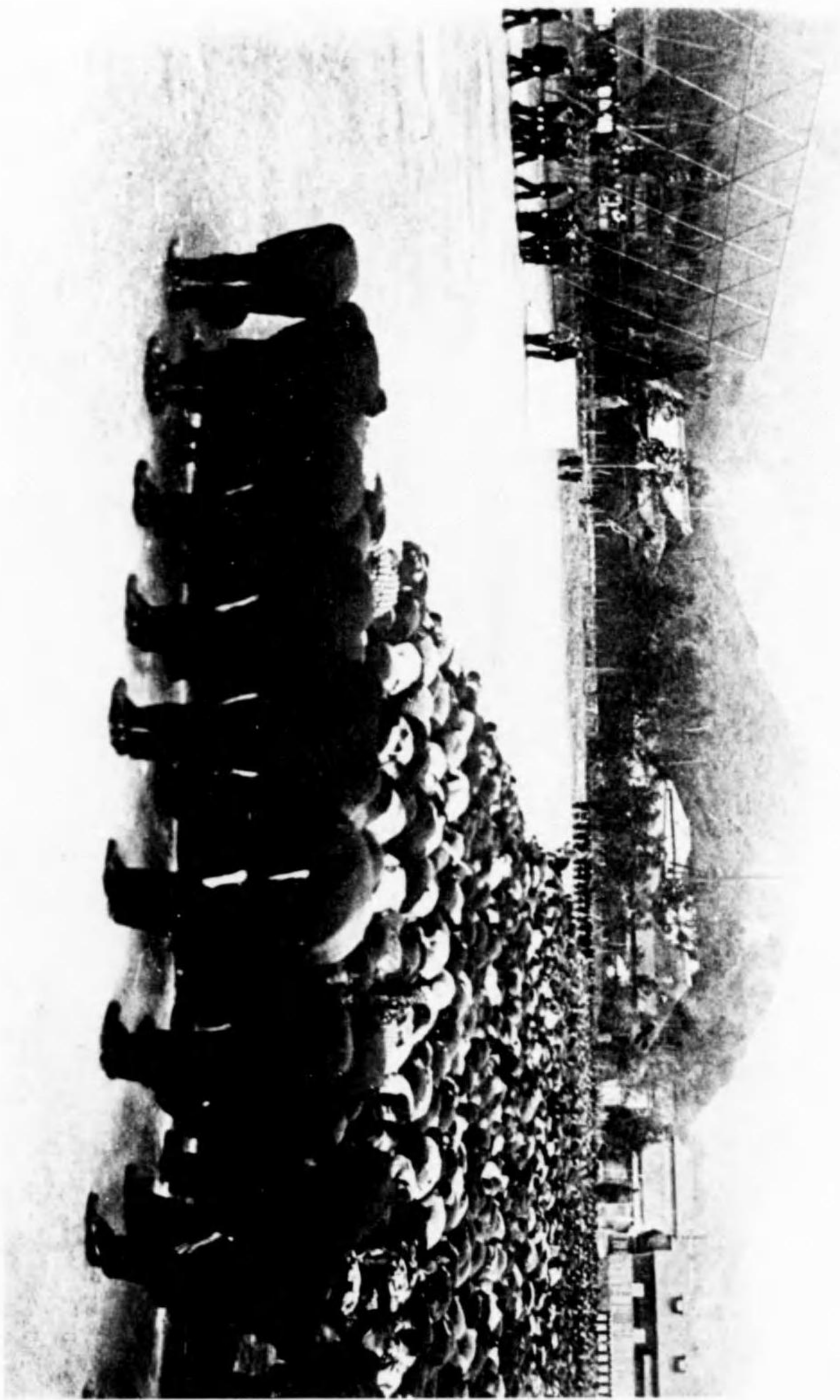
本誌装幀のクロスは本校紡織科の謹製にかゝるものなり。



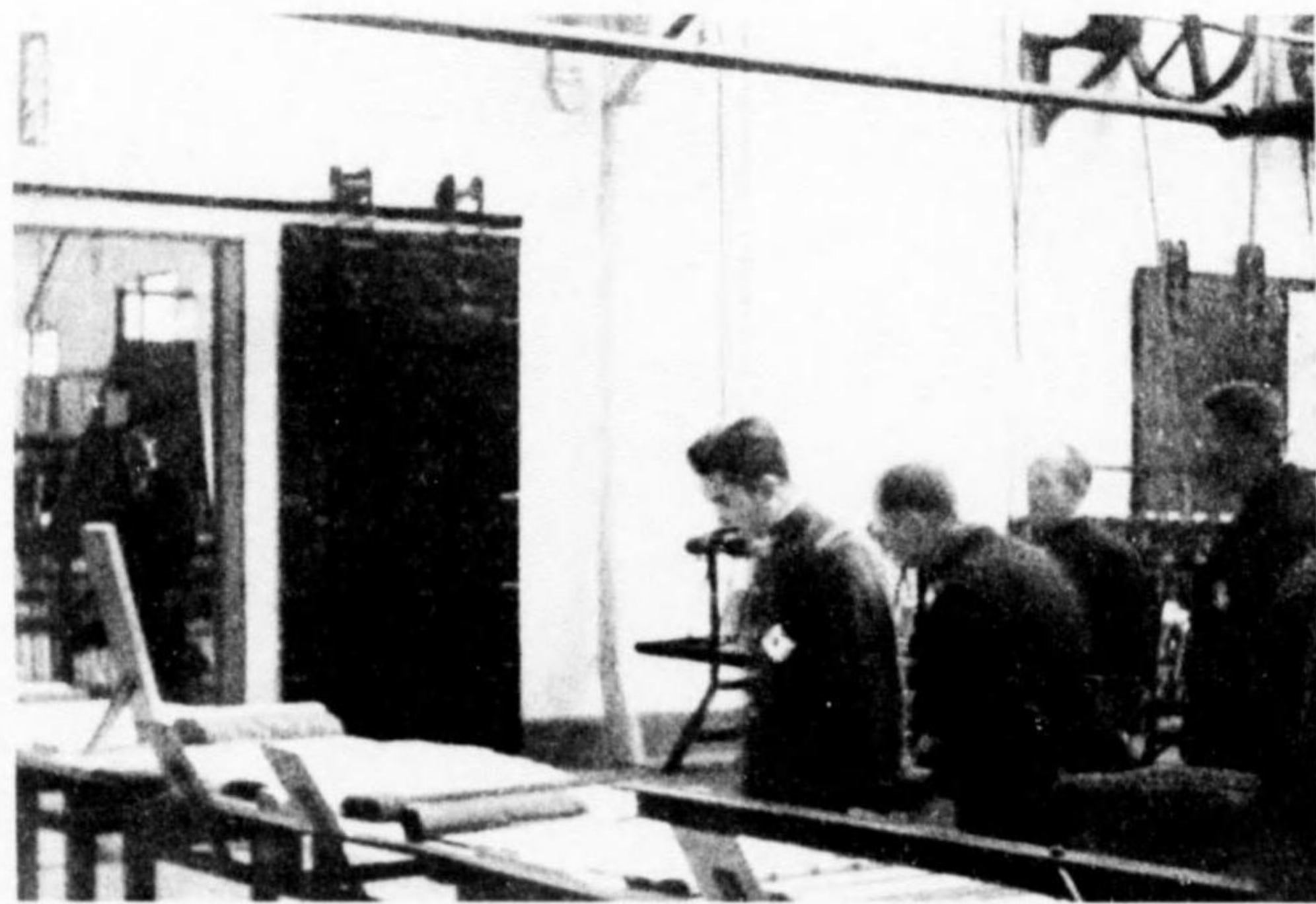
着 御 關 玄



紙製に場人にせら給ふ



六給せさけ受を拜奉の民國き若の萬：

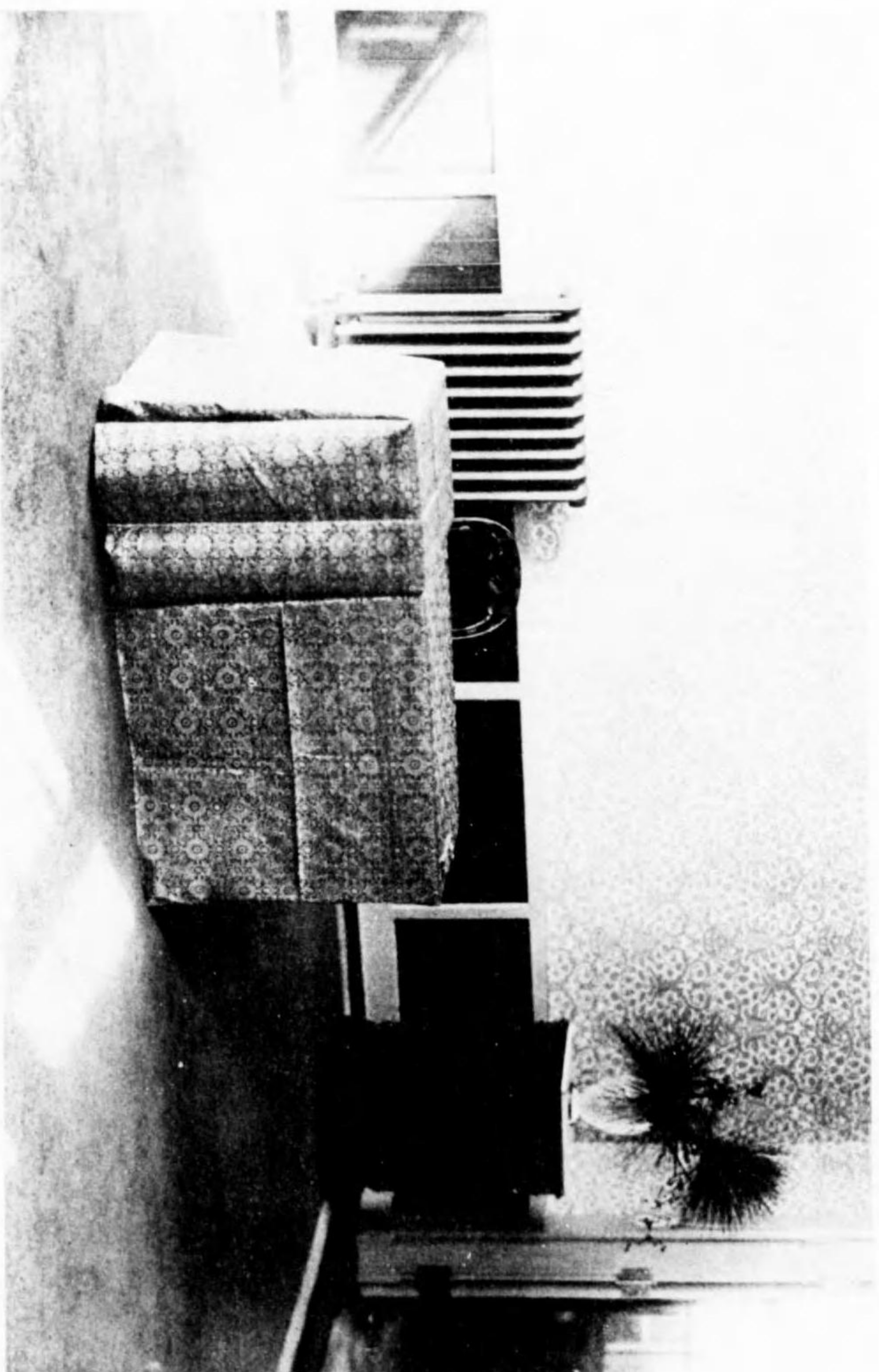


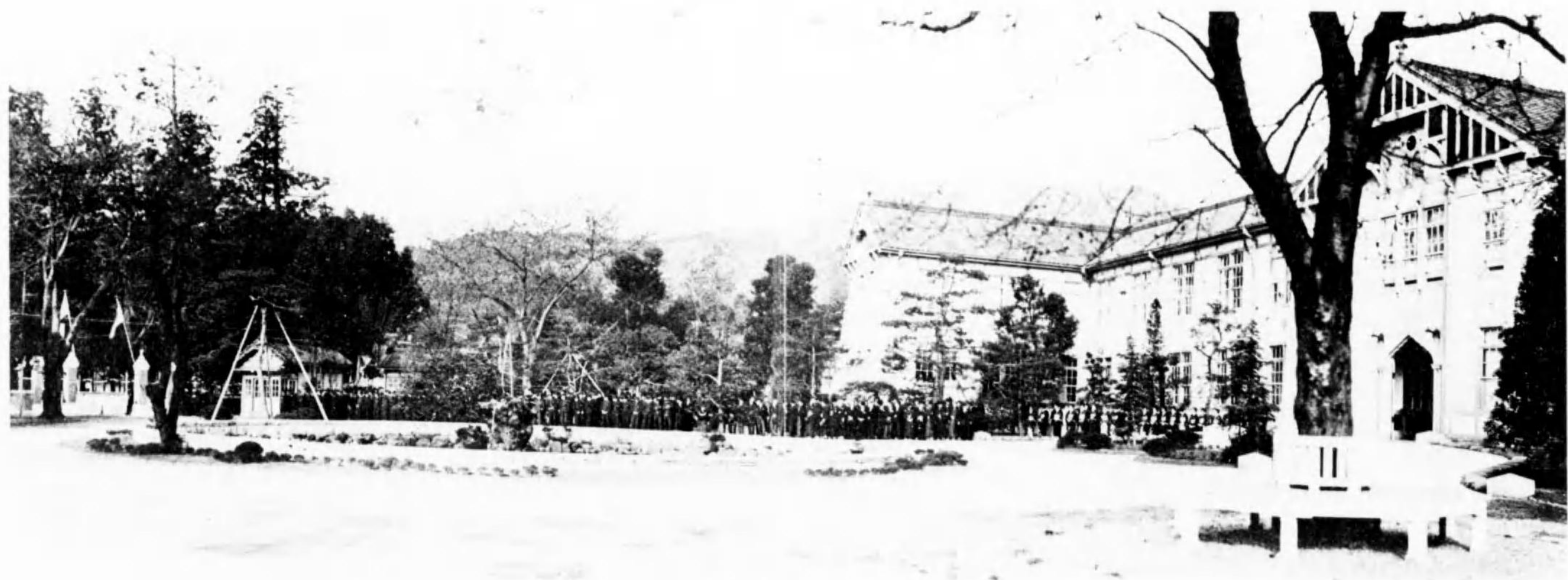
校 内 御 巡 覽



圖 神 節

所 庫 御





前庭奉迎者堵列

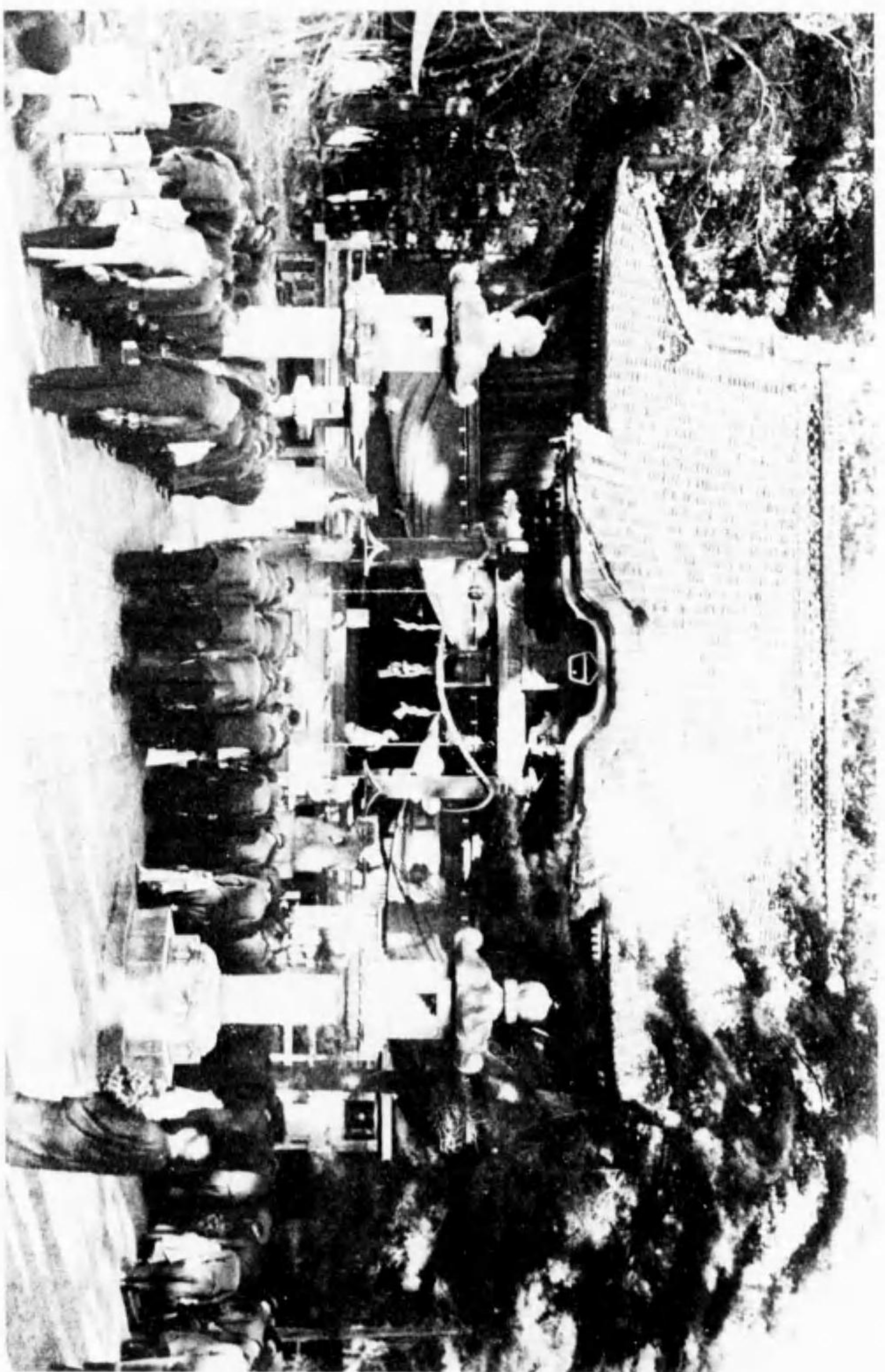
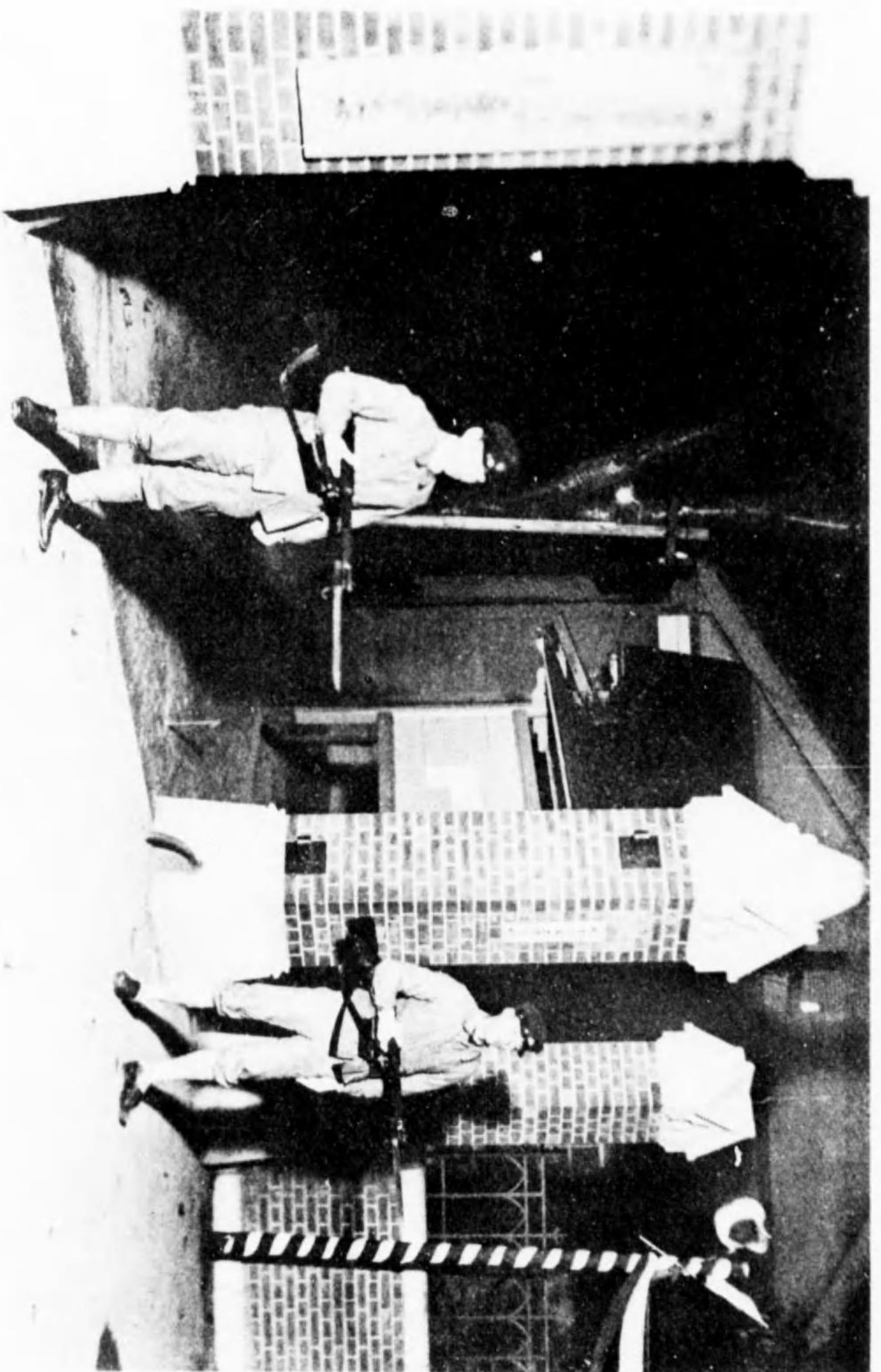
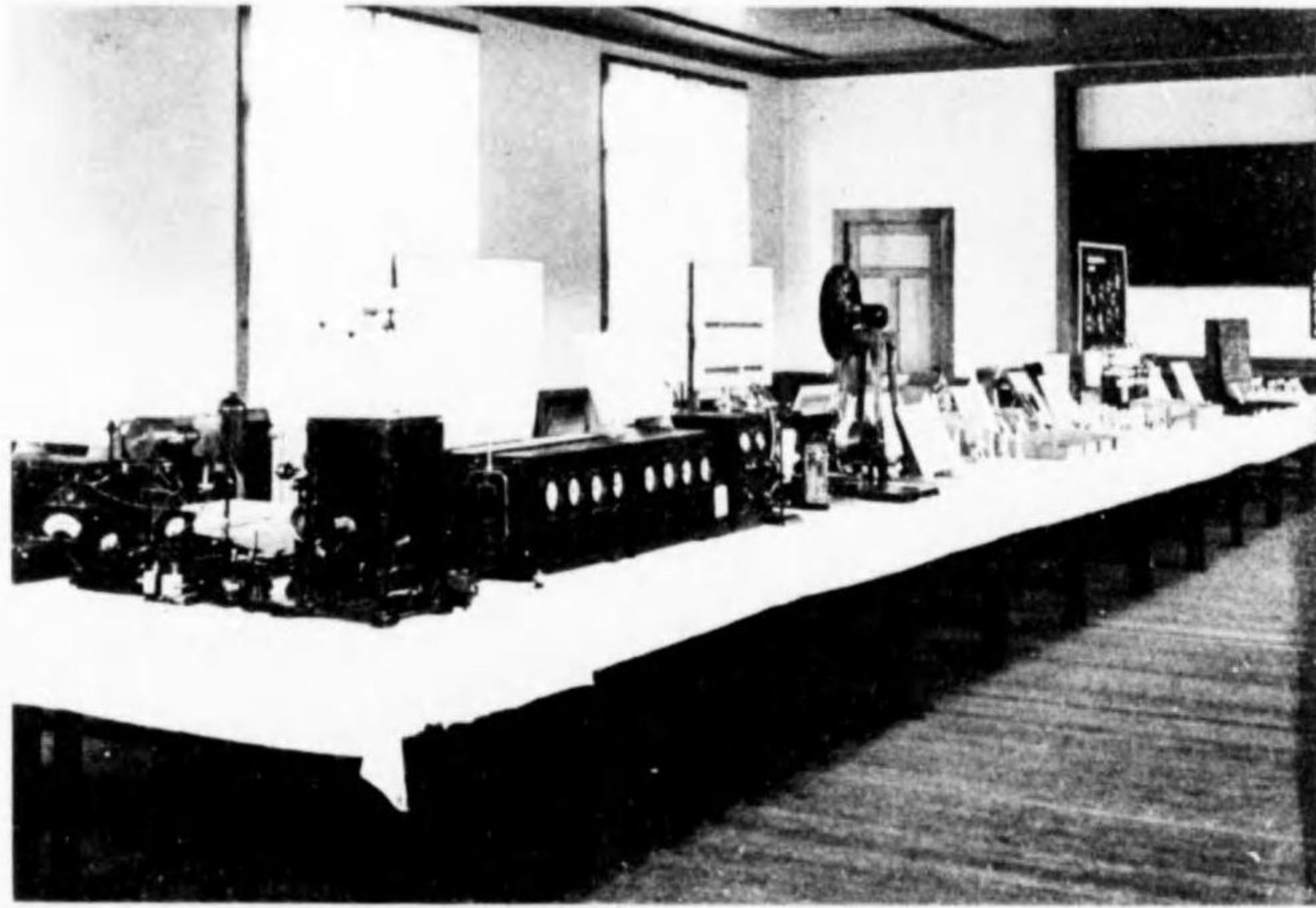


圖 節 慶 節 日



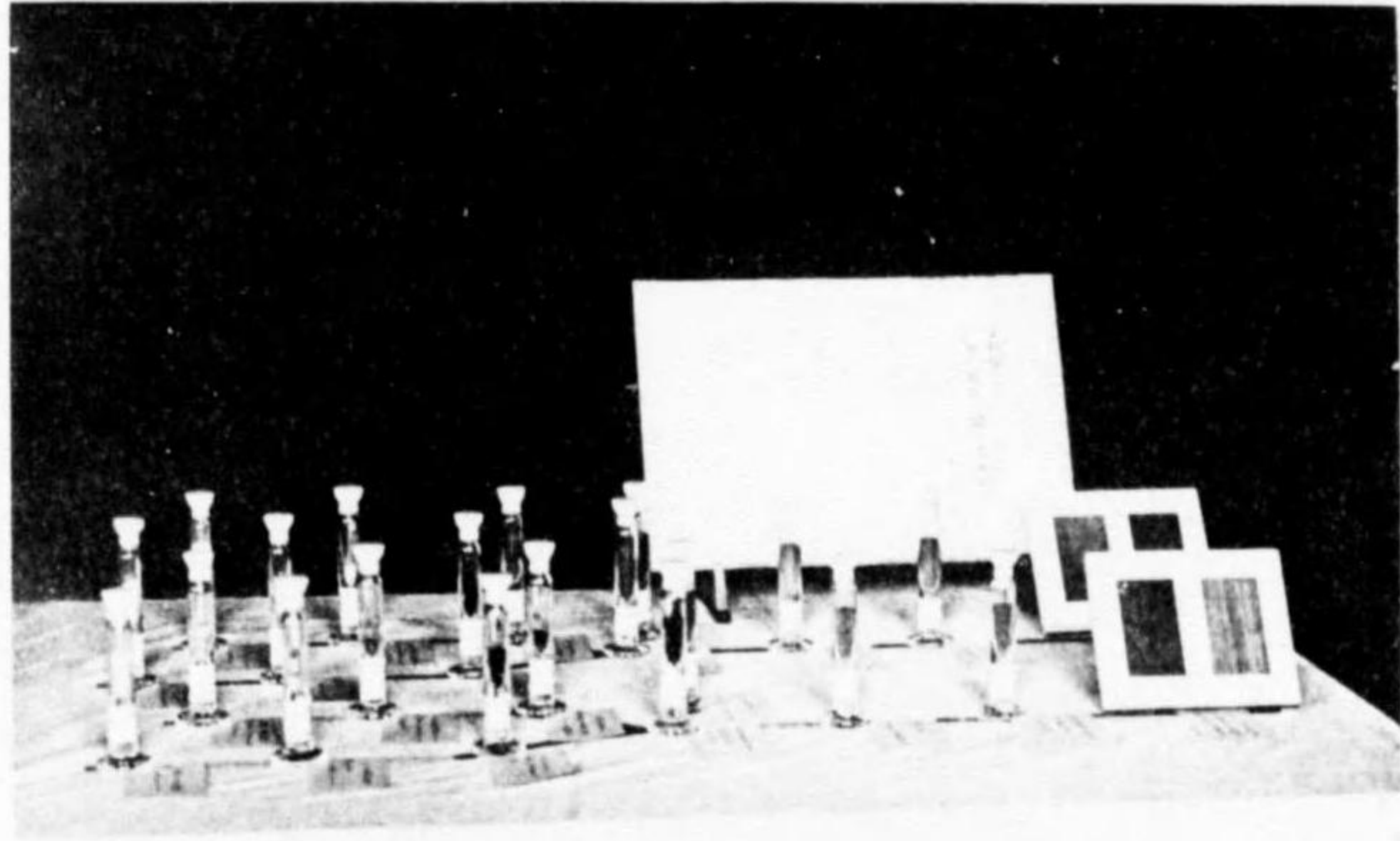
警 夜

天覽研究品室全景



天覽研究品室全景

(其) 品究研覽天

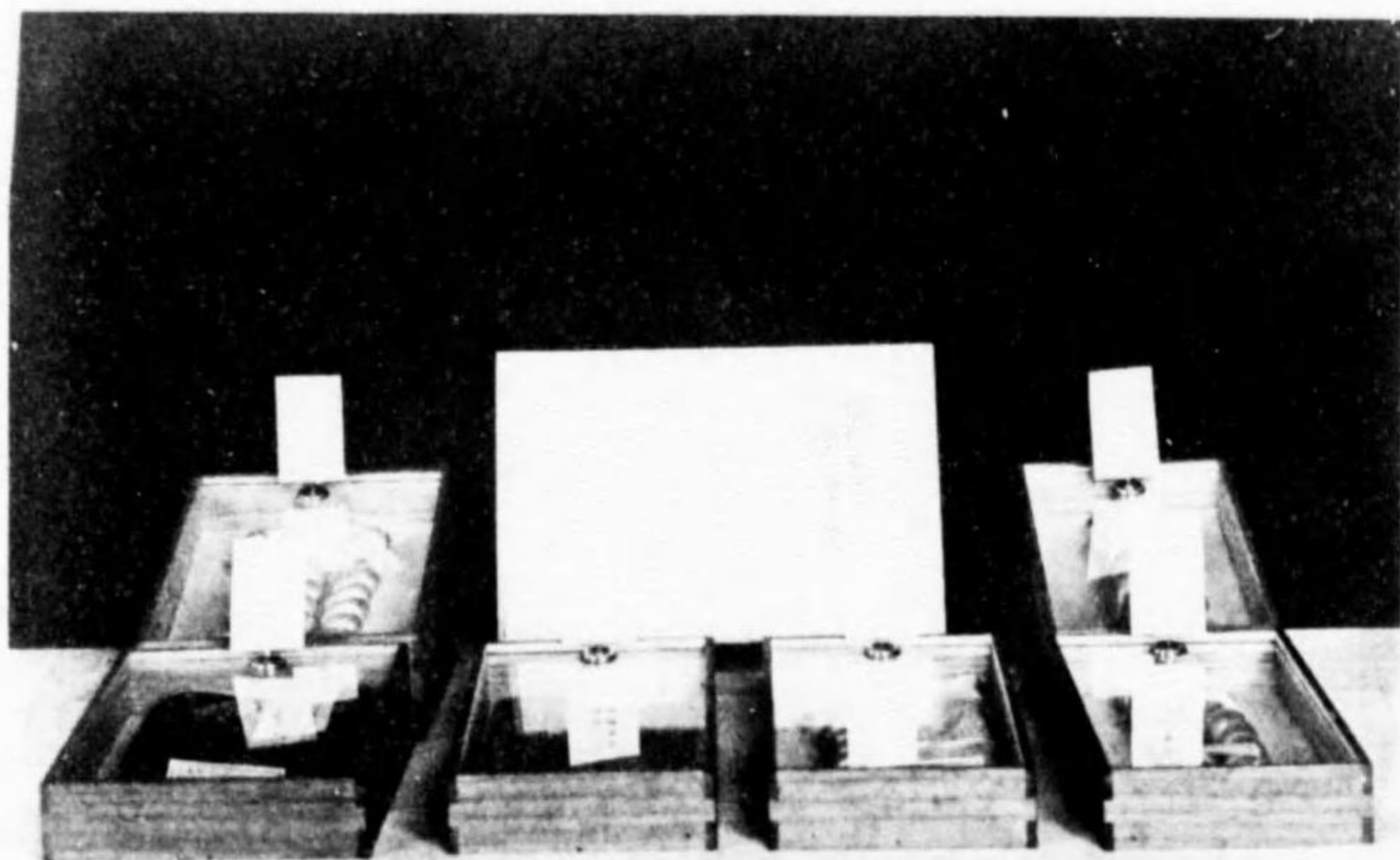


品作授教本岩

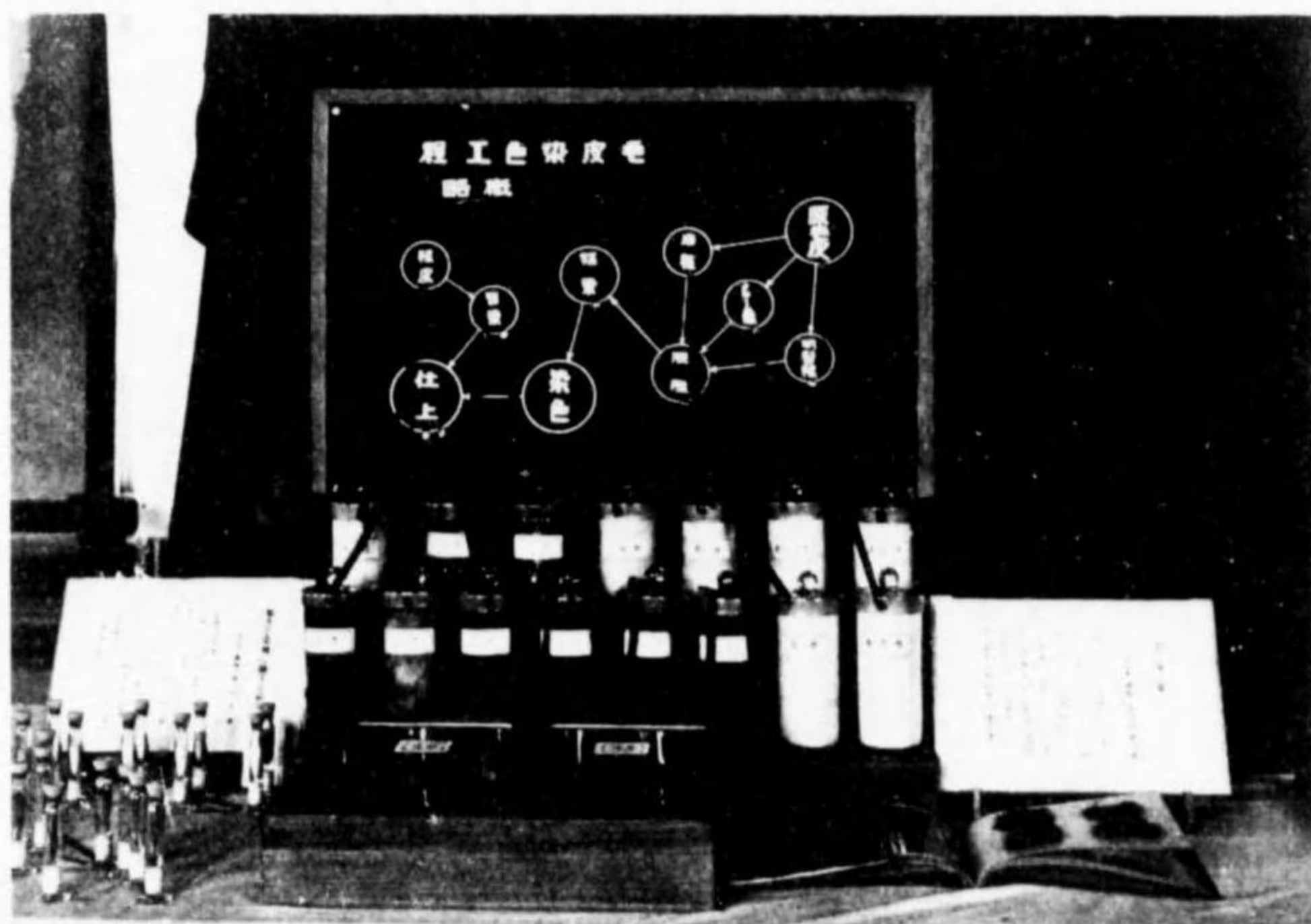


品作授教田吉

天覽研究品

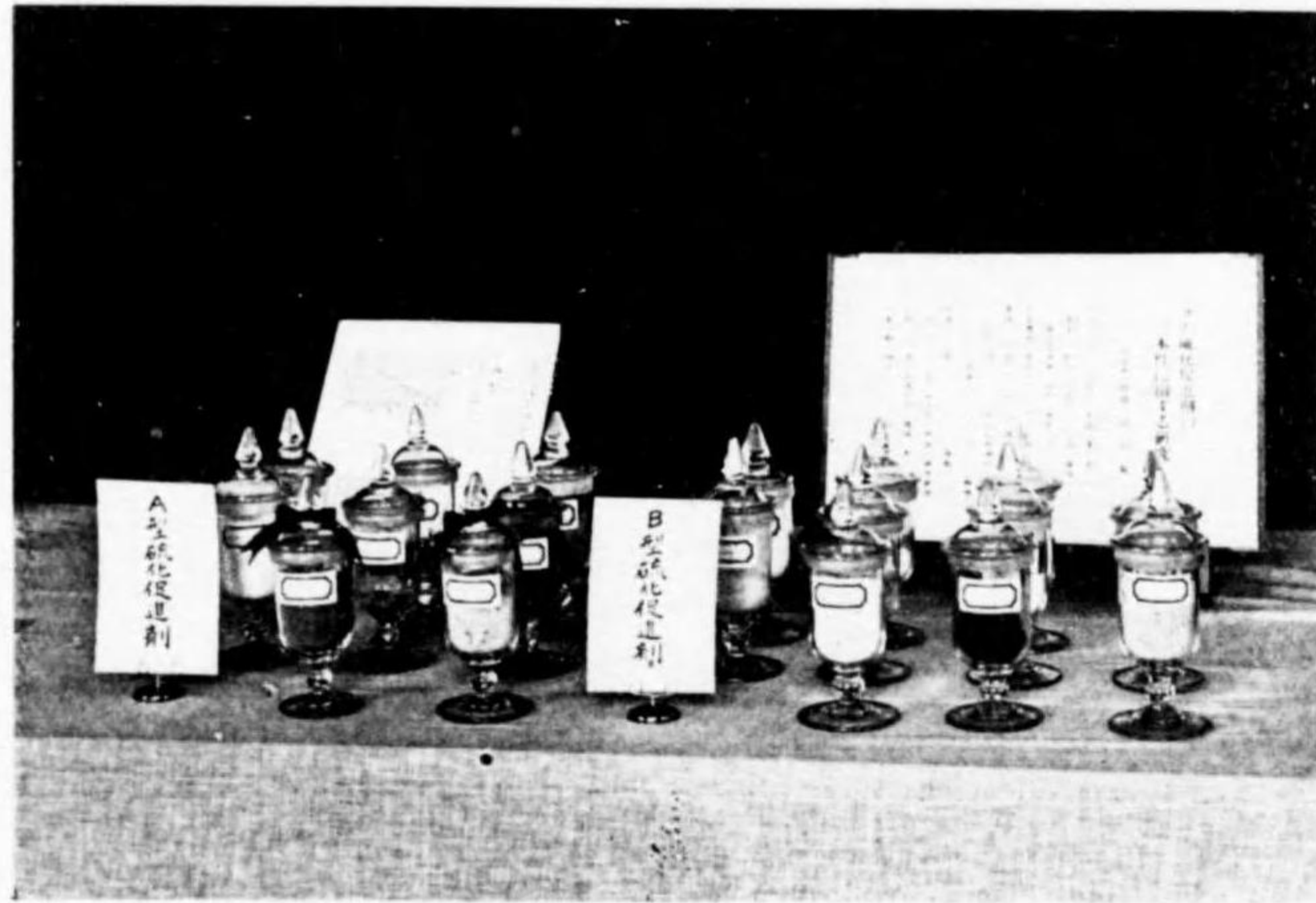


豐川教授作品

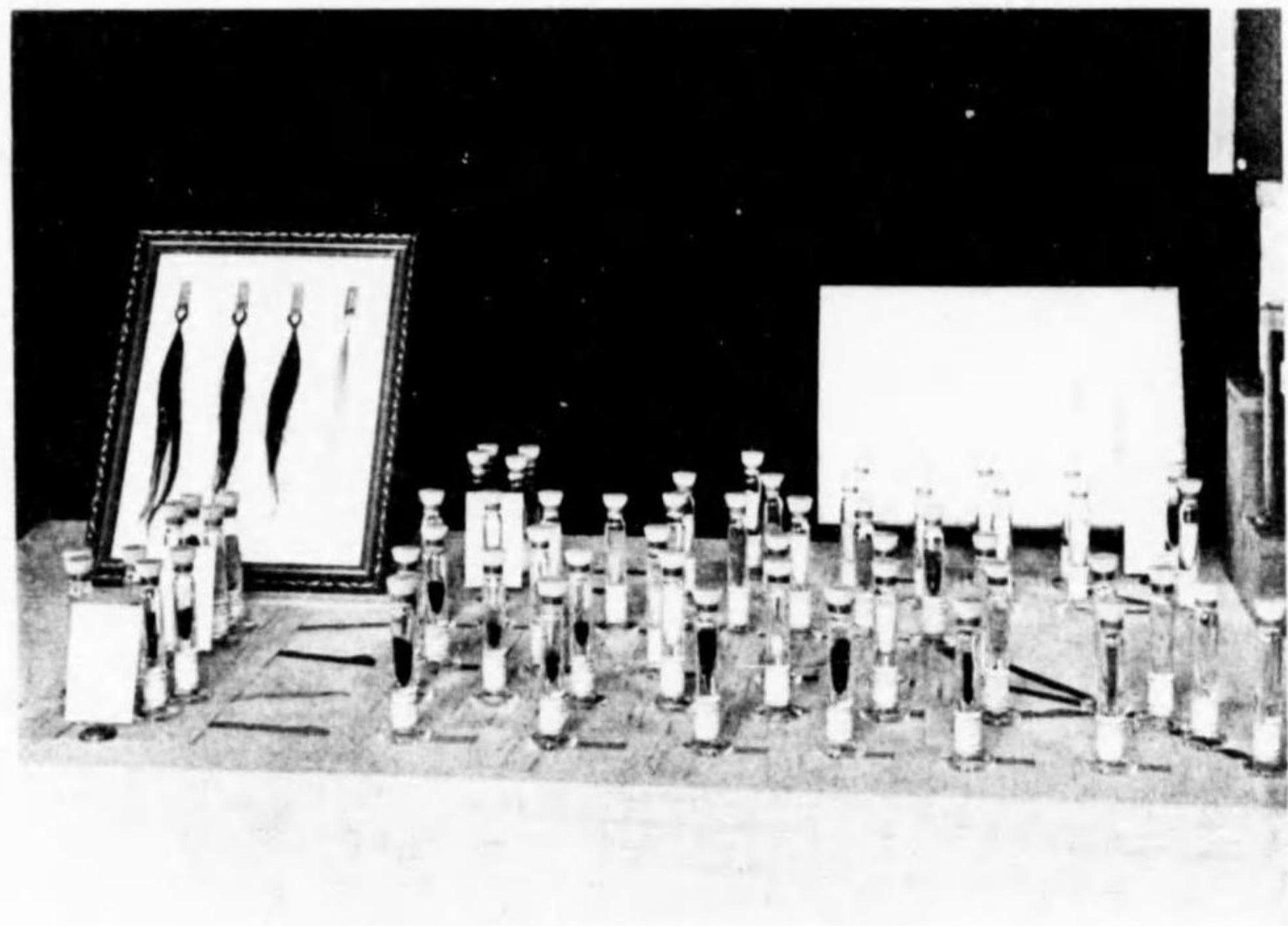


加賀山及師作品

天覽研究品

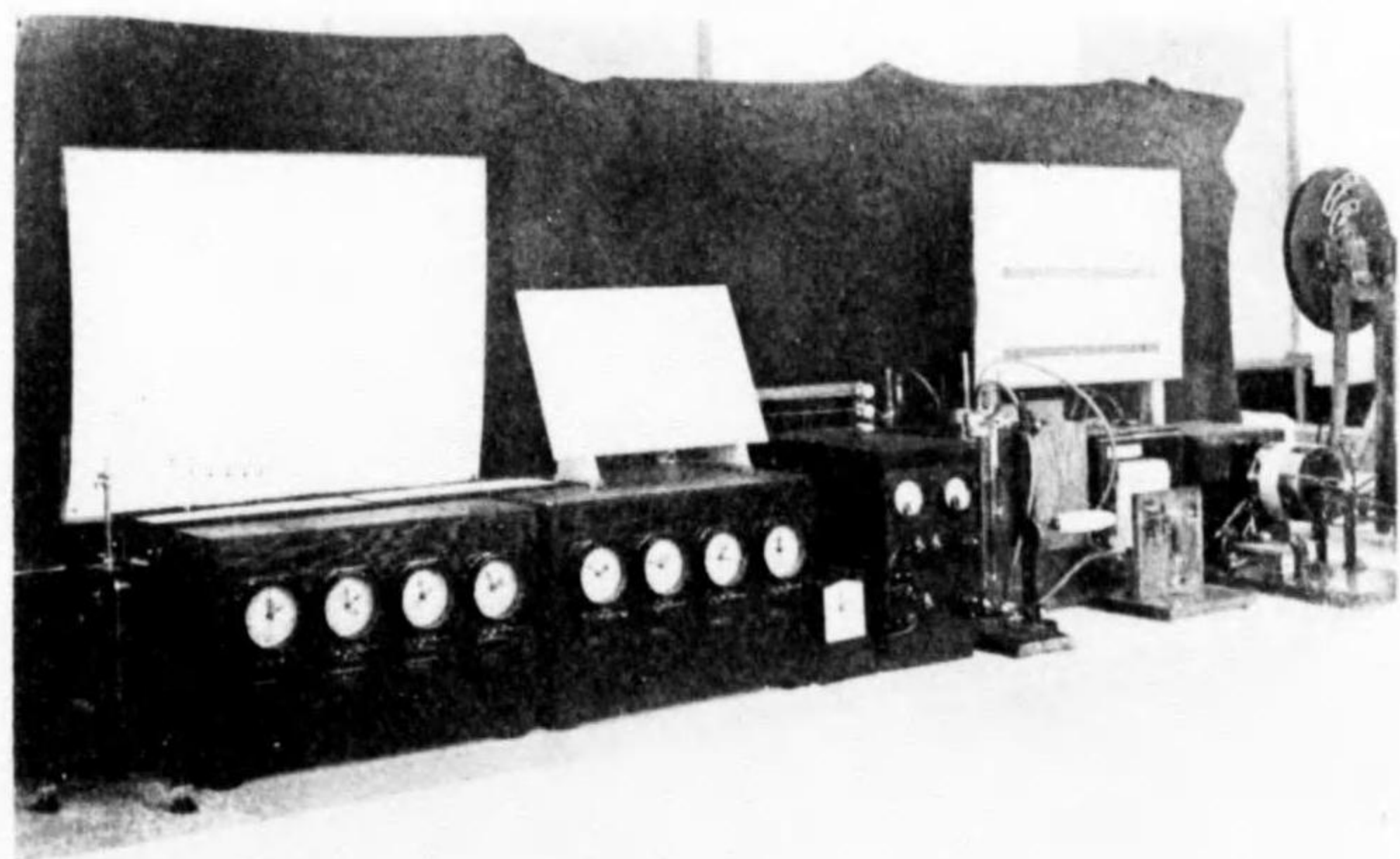


島田教授作品

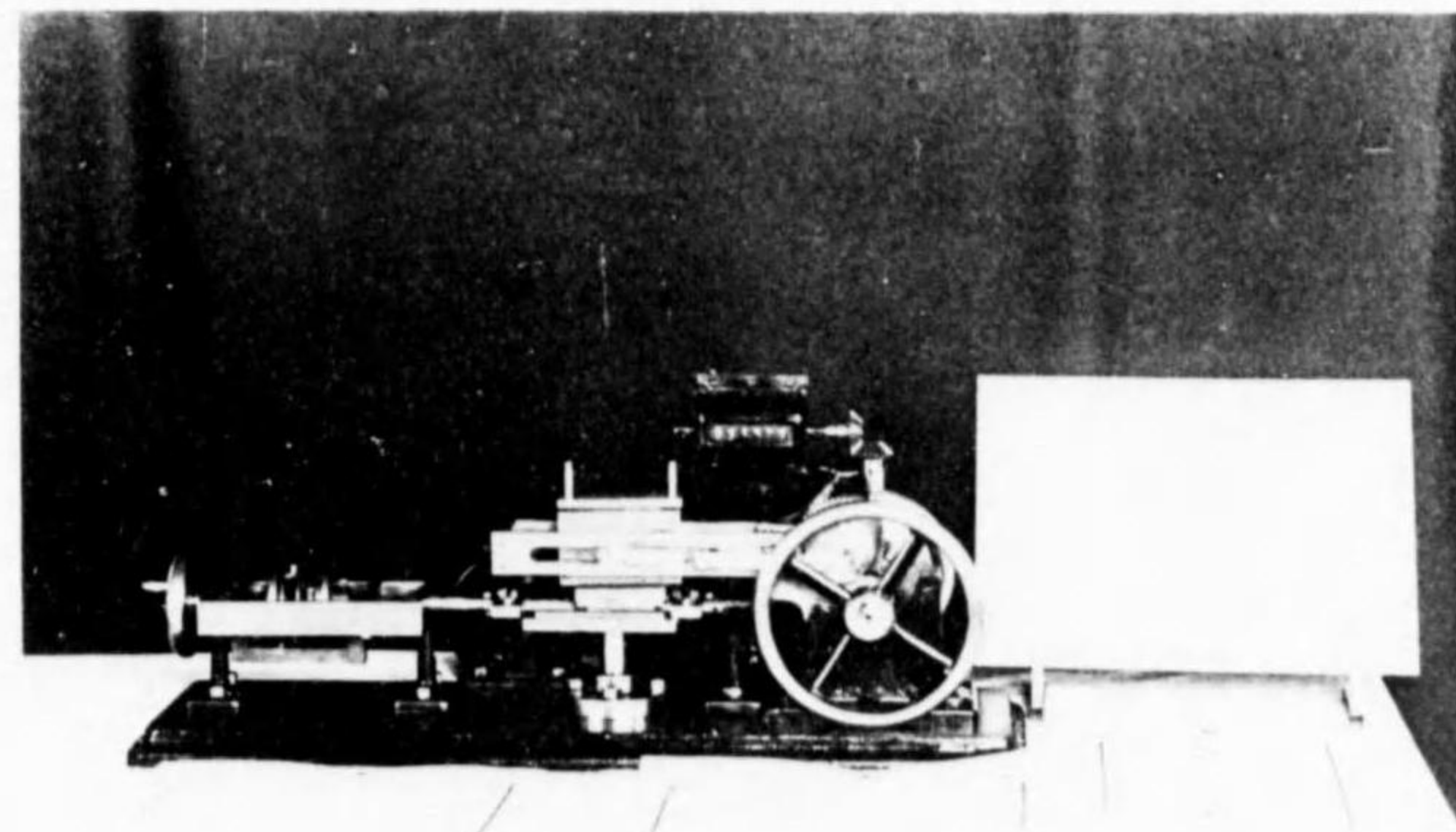


森本講師作品

天 覽 研 究 品 (四)

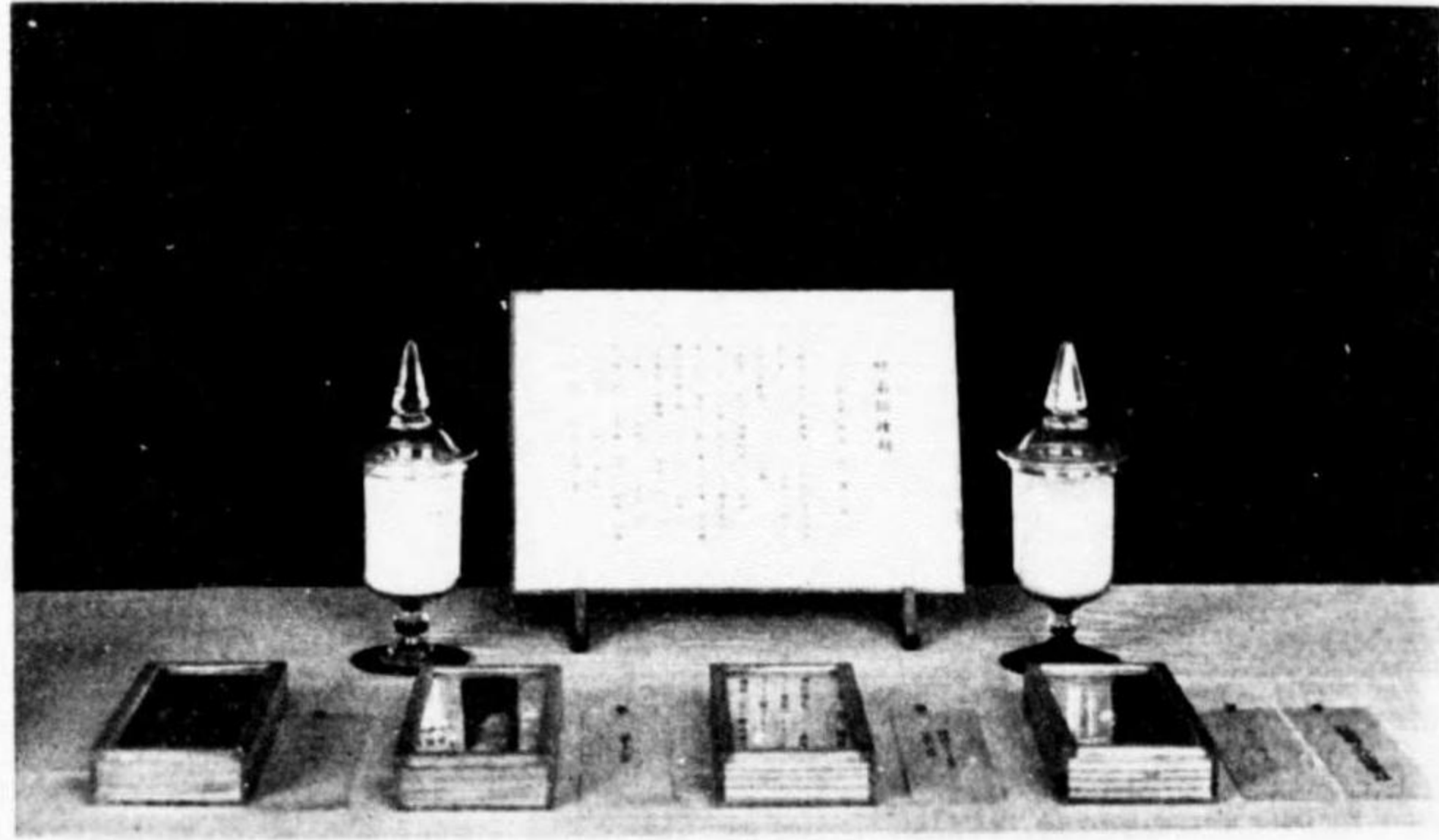


森 敦 校 作 品

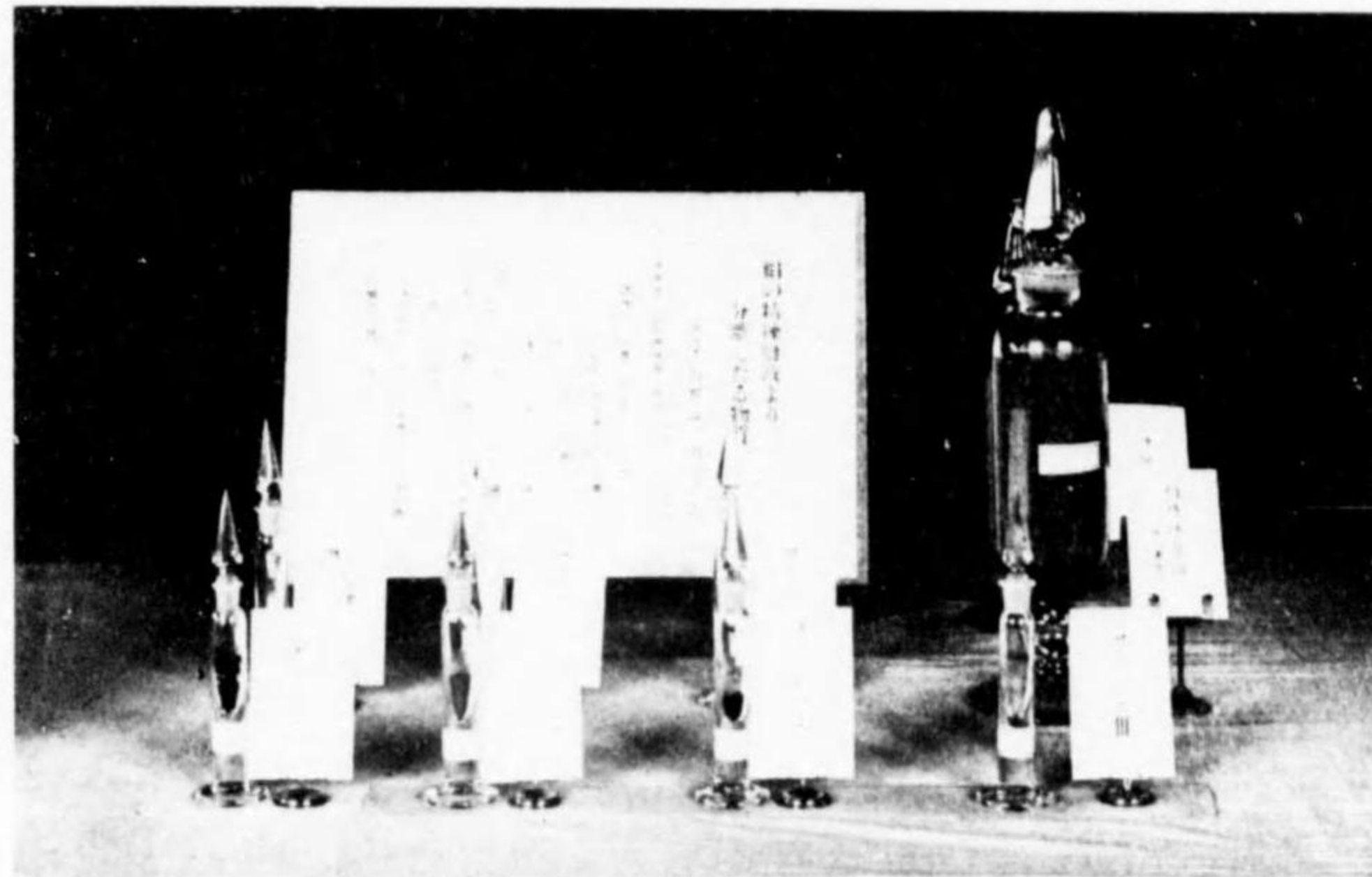


相 田 敦 校 作 品

(五其) 品究研覽天

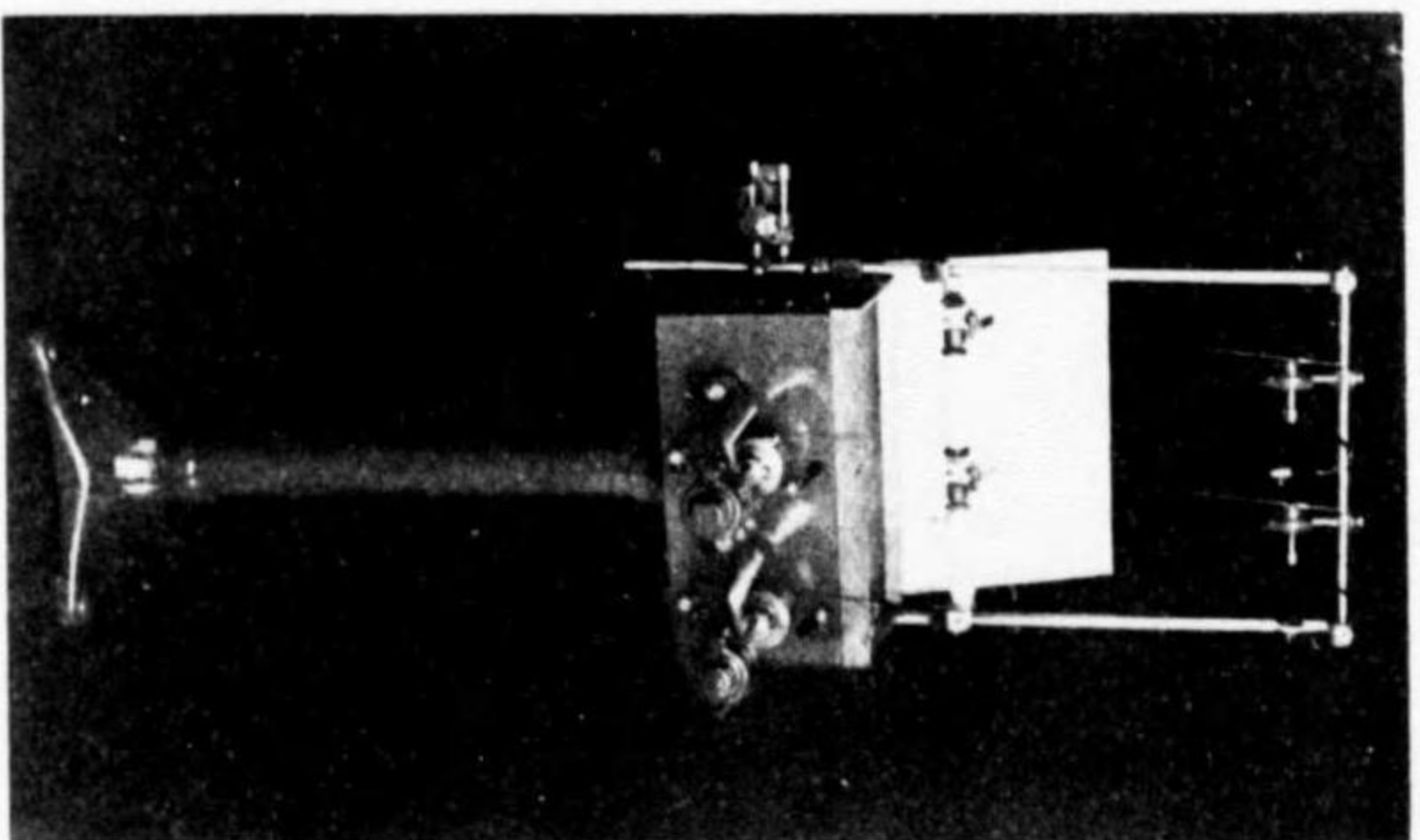


品作授教澤伊

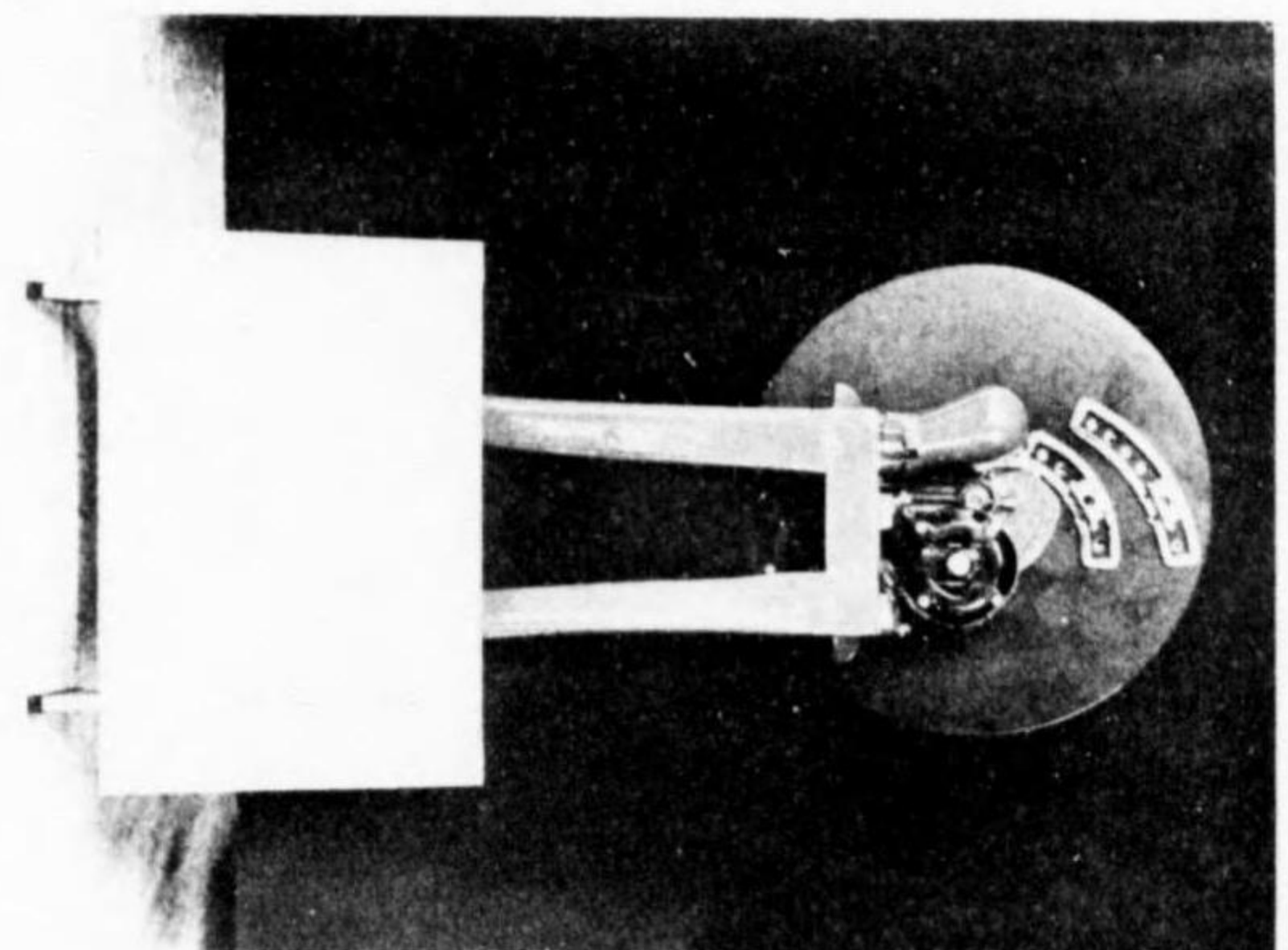


品作授教田豊

六、晶 究 研 覽 大



晶 作 手 助 屏 振



晶 作 投 控 春

天覽研究品

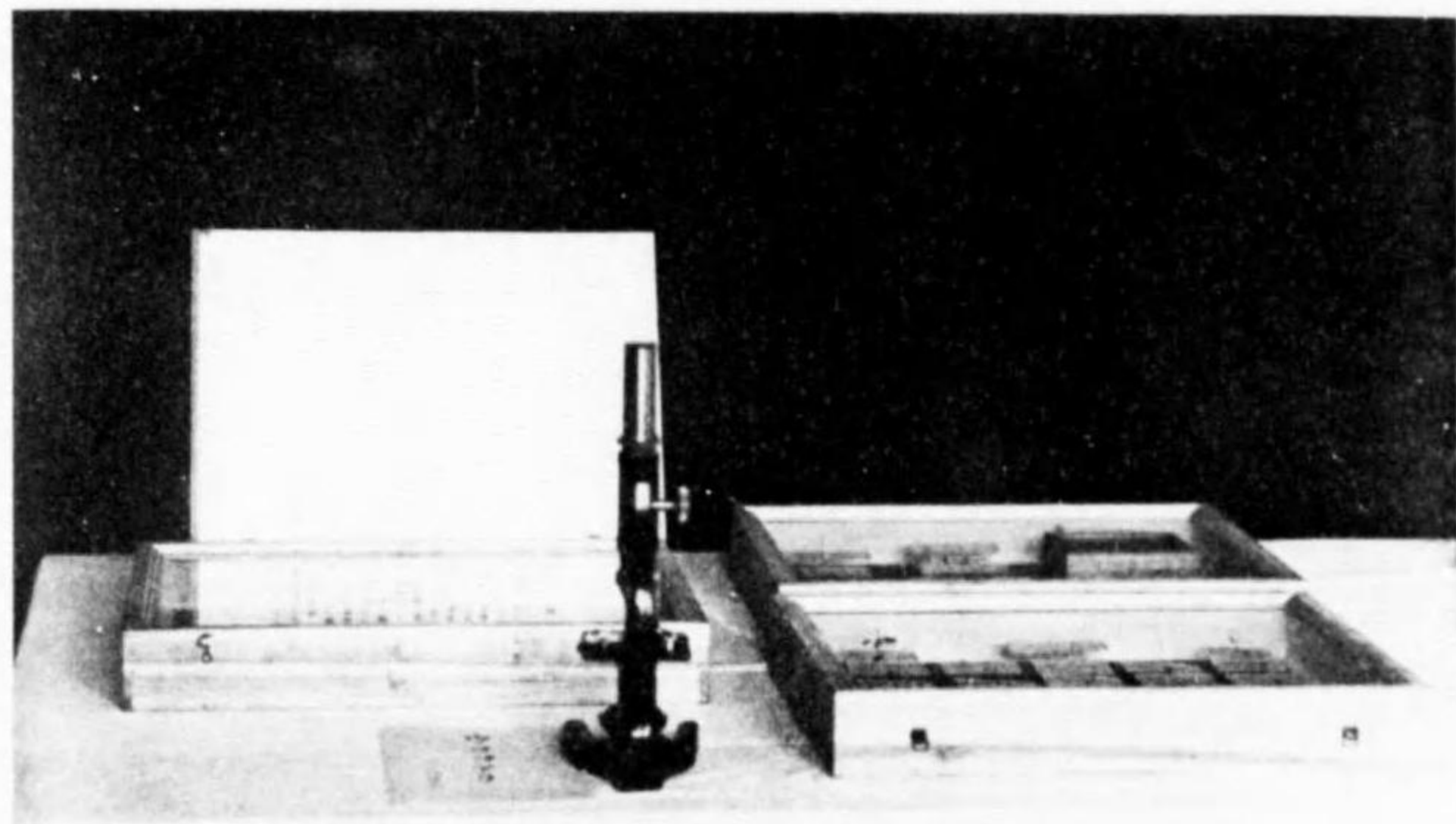


天野野師共作品
大田嶋証

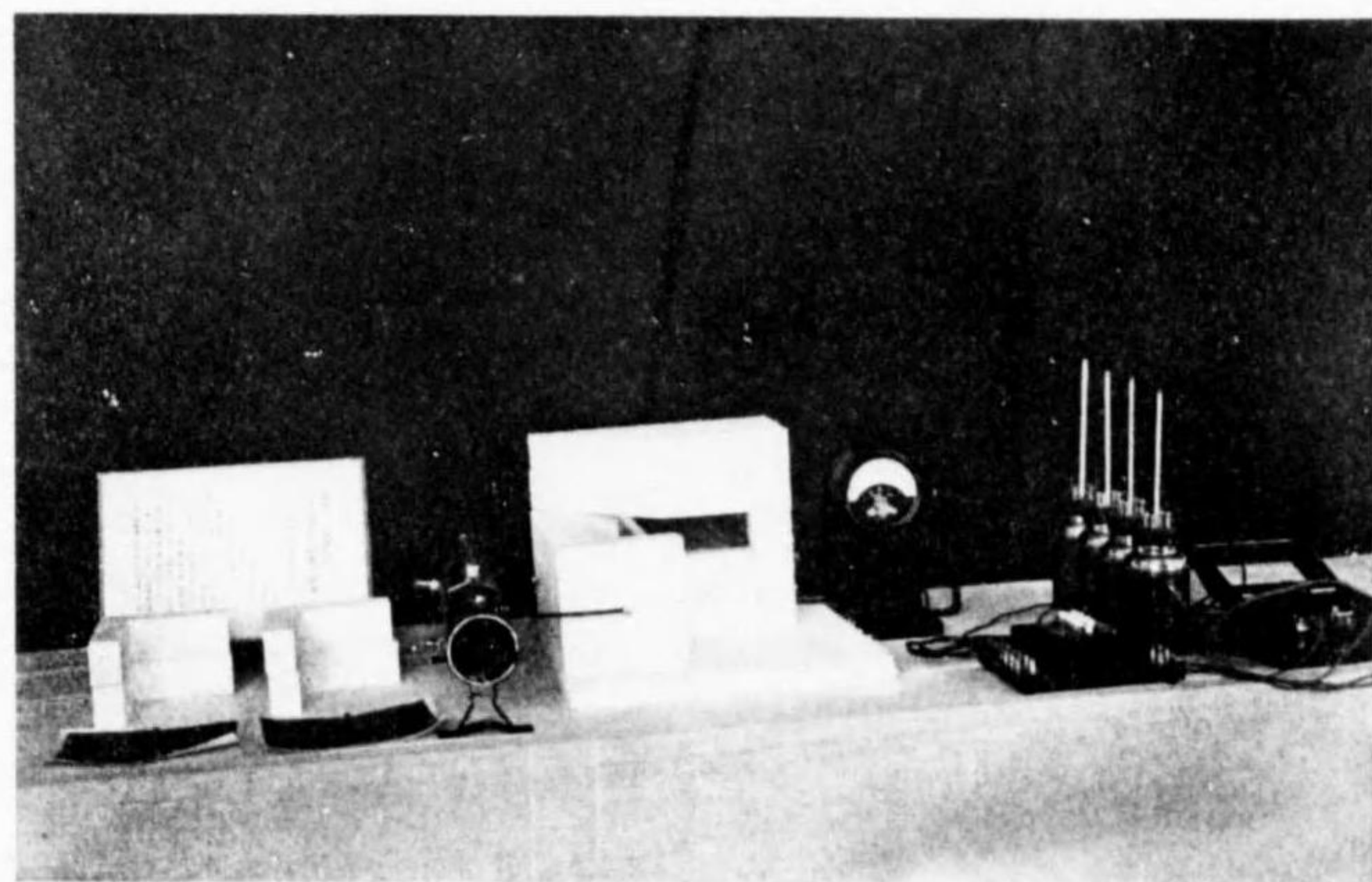


森教校作品

(天覽研究品)



吉岡助教作品



田村教授作品

登明徑似且
洋水地球隨處
其不通

文部大臣杉本協博



聖愛宏火

師弟相擁感泣

昭和九年十二月十六日

桐葉高等工業學校校長

西田博太郎

謹て序す

維時昭和九年十一月十日 今上天皇陛下 大猷を群馬縣に進め
させられ御親ら特別大演習を統裁させ給ひ續いて地方産業及教
育の實況を櫛はせられ十一月十六日 畏くも 聖駕を我校に枉げ
させ給ひ長時に亙つて親しく校内を天覽あらせらる眞に恐懼感激
措く能はざるところにして、まことに本校千載一遇の光榮なり。

謹で案ずるに 聖上陛下常に教育の事に宸襟を留めさせられ屢、
聖訓を垂れ給ひて國民の嚮ふ所を誨へ給ふ、臣等本校に職を奉ずる
者日夜勵精 聖旨に副ひ奉らん事を努むと雖も尙甚足らざるを愧
づ、會、聖駕を親しく本校に駐めさせられ職員研究成績より生徒の
學習實況に到る迄審さに 聖覽あらせられ屢々有り難き御下問を

賜はり努むべき點を垂示せさせ給ひ、更に翌十七日微臣を行在所に召させられ、御陪食を賜り本校施設に關して、御印象の一端を御沙汰せさせ給ふ、天恩優渥、乾徳宏大寔に恐懼感激の到に堪へず、本校の光榮誠に之れに過るもの無く、長く校史に止めて千歳に遺さんとす。

乃ち顛末を謹記し普く本校關係者に頒布して此の光榮を頌ち、各、その分に應じて益々協戮黽勉、聖恩の萬分の一に應へ奉らん事を期す。

昭和十年二月八日

桐生高等工業學校長 西田博太郎

目次

第一編

行幸御治定同御日程	……………	一頁
行幸御治定	……………	一
行幸御日程	……………	二
行幸前記	……………	六
行幸御内定	……………	六
奉迎準備事務分擔	……………	六
校内諸設備	……………	二
衛生	……………	三
警備	……………	一六
御臨幸警備細目	……………	一七

御還幸奉送……………七〇
 校内公開縦覧……………七〇
 記念事業……………七〇

第二篇

鳳輦を迎へまつりて(西田校長謹話)……………七三
 感激に燃ゆる職員、學生及び卒業生……………一二
 新聞記事……………一六
 本校空前の光榮(西田校長謹話)……………一六
 光榮の桐生高工奉迎準備進む……………一六
 桐工の光榮……………一七
 初の行幸を仰ぎて光榮に輝く桐生機業……………一七
 機都桐生の光榮……………一七

天恩無窮(西田校長)……………一四

第三篇

校内道路舗装……………一七
 校内道路舗装工事に就て……………一七
 奉迎に関する諸計劃立案實施大要……………一八
 第一回準備委員會議……………一八
 第二回準備係主任會議……………一八
 奉迎準備豫定表……………一八
 計劃次第書完成……………一九
 参考資料……………二二
 鹵簿誤導事件……………二二
 光榮に輝く本校……………二四
 編述を終りて……………二九

寫眞目次

- 一、玄關御着
 - 二、製紙工場に入らせ給ふ
 - 三、二萬の若き國民の奉拜を受けさせ給ふ
 - 四、校内御巡覽
 - 五、御親閱
 - 六、御座所
 - 七、前庭奉迎者堵列
 - 八、御安泰祈願
 - 九、夜警
 - 十、天覽研究室全景
 - 十一、天覽研究品(其二)
- 岩本教授作品(上)

吉田教授作品(下)

十二、天覽研究品(其二)

豐田教授作品(上)

加賀山講師作品(下)

十三、天覽研究品(其三)

島田教授作品(上)

森本講師作品(下)

十四、天覽研究品(其四)

森教授作品(上)

相田教授作品(下)

十五、天覽研究品(其五)

伊澤教授作品(上)

豐田教授作品(下)

十六、天覽研究品(其六)

森教授作品(右)

根岸助手作品(左)

十七、天覽研究品(其七)

飯野講師
大山囃託共同作品(上)

森教授作品(下)

十八、天覽研究品(其八)

吉岡助教授作品(上)

田村教授作品(下)

十九、松田文部大臣題字

二十、西田桐生高等工業學校長題字

第
一
篇

- 一、行幸御治定、同御日程
- 二、行幸前記
- 三、聖駕を迎へまつりて
- 四、行幸後記



幸記念誌

桐生高等工業学校

行幸御治定、同御日程

一、行幸御治定

(宮内省告示第二十三號)

天皇陛下陸軍特別大演習御統裁ノ爲來十一月十日御發輦群馬栃木埼玉縣下へ行幸大演習御統裁終了後三縣下ヲ御巡幸同十八日還幸アラセラルヘキ旨仰出サル

昭和九年十一月一日

宮内大臣 湯淺倉平

一行幸御日程

(昭和九年十一月一日官報)

十一月十日

午後一時

宮城御發車

同 一時二十分

上野驛御發車

同 三時三十五分

前橋驛御著車

大本營 群馬縣廳

同 十一日

演習御統裁

同 十二日

演習御統裁

同 十三日

演習御統裁

同 十四日

觀兵式 賜 饌

行在所 群馬縣廳

同 十五日

前橋地方裁判所、群馬縣立前橋中學校、群馬縣蠶業試驗場、
群馬縣師範學校、群馬縣種畜場へ行幸
行在所 群馬縣廳

同 十六日

午前八時五十五分

行在所御出門

同 九時二分

前橋驛御發車

同 九時四十一分

桐生驛御著車

機織天覽場 桐生高等工業學校

公設消防組御親閱場へ行幸

同 十一時十五分

桐生驛御發車

同 十一時三十五分

足利驛御著車

足利市水道配水池、栃木縣立足利工業學校へ行幸

午後一時五十分

足利驛御發車

同 二時五分 太田驛御著車

中島飛行機株式會社へ行幸

同 三時八分 太田驛御發車

同 四時二分 前橋驛御著車

行在所 群馬縣廳

同 十七日

午前九時五十五分 行在所御出門

同 十時二分 前橋驛御發車

同 十一時十三分 上州一ノ宮驛御著車

國幣中社貫前神社へ行幸群馬縣立富岡中學校へ御立寄

午後零時四十分 上州一ノ宮驛御發車

同 一時三十一分 高崎驛御著車

帝國在郷軍人會在郷軍人御親閱場中等學校以上男女學

生生徒其他御親閱場へ行幸

同 三時二十七分 高崎驛御發車

同 三時四十二分 前橋驛御著車

行在所 群馬縣廳

同 十八日

午前九時 行在所御出門

同 九時八分 前橋驛御發車

同 十時五十分 大宮驛御著車

官幣大社氷川神社、埼玉縣廳へ行幸

午後一時五十五分 浦和驛御發車

同 二時二十五分 上野驛御著車

還 幸

行幸前記

行幸御内定

昭和九年五月十八日、文部當局に對し、學校長より、御臨幸に關する打合せを爲し、六月一日、文部省より宮内省宛、正式に桐生高等工業學校へ御臨幸の儀伺出、同月中旬、愈、秋季特別大演習に際し、本校へ行幸あらせらるゝ旨御内定、同十六日、侍從大金益次郎、宮内大臣秘書官、行幸主務官町村金五等の諸氏を始め、宮内官三名、金澤群馬縣知事等二十數名來校、本校各般の設備につき、第一回の下檢分ありたり。

奉迎準備事務分擔

六月二十九日、奉迎に關する事務分擔の爲め、校内に十四係を設け、係員左記の通り委嘱せらる。

行幸事務擔任委員

(六月二十九日)

一、設備係 建物内外一切

主任 學校長

小川教授、高桑教授、大澤教授、山田教授、飯野講師、北村講師、天笠書記、鹽谷書記、大澤書記、千明囑託、八木橋書記、豐田履、加部履、會田履、飯塚履、山口履、酒井履、木崎履(以上十九名)

二、天覽品係 陳列場所陳列共

主任 太田代教授

杉浦教授、森教授、吉田教授、眞野教授、大澤書記、日部履、山崎履、前原(德履、加藤履、菊池履、高井履以上十二名)

三、訓練係 奉送迎、陪觀(大演習觀兵式御親閱)

主任 藤田中佐

長屋教授、熊野御堂助教授、千明囑託、淺香助教授、鹽谷書記、宮城履、三池履(以上八名)

四、衛生係 豫防、消毒

主任 北村講師

伊澤教授、岩本教授、田村教授、千明囑託、大金囑託、宮城履、三池履以上八名

五、警備係 行幸前より御駐輦中

主任 相田教授

佐々木教授、吉岡助教授、神山助教授、森田助教授、寺本囑託、森本囑託、井口履、小林(寅)履、西山履、日部履、豊田履、奥村履、堀履、小林(周)履、津久井履、笠原履、水越履、黒田履、渡邊履、田村履、田卷履、五十嵐(富)履、五十嵐(喜)履、星野履以上二十五名

六、電氣係

主任 森田助教授

塚原履、根岸道(履)、佐藤政(係)以上四名

七、煖房係

主任 小川教授

田村教授、杉山囑託、服部助手、堀履、會田履以上六名

八、記念誌及謹寫係

主任 大澤教授

平田教授、吉田教授、長屋教授、松島教授、分田助教授、大澤書記、石井囑託、吉田(六)囑託、鈴木履、周東履、宮腰係、田卷係、前原賴(係)以上十四名

九、庶務係

主任 淺香助教授

松村助教授、高橋助教授、加賀山囑託、並木書記、澤藤履、進藤履、松崎履、山下履、板井履、山岸囑託、佐藤履、三池履以上十三名

一〇、接伴係

主任 太田代教授

小川教授、高桑教授、豊田教授、岩本教授、飯野講師、北村講師、平田教



授、島田教授、眞野教授、下田教授、中島教授、天野助教授以上十三名

一、色染化學科工場準備係

山田教授、天野助教授、後藤助教授、加賀山囑託

一二、紡織科工場準備係

森教授、相田教授、堀越囑託、松島教授、神山助教授、大山囑託、根岸助
手

一三、應用化學科工場準備係

高桑教授、島田教授、伊澤教授、下田教授、益田囑託、加藤囑託

一四、機械科工場準備係

佐々木教授、眞野教授、杉山囑託、分田助教授

尙十一月に到り左の係依囑せられたり。

警備係 宮城雇、三池雇

自動車係 大澤書記、加部雇

時間係 松崎雇



案内係 天野助教授、森田助教授、熊野御堂助教授、並木雇、鹽谷雇

校内諸設備

本館前庭は、宇都宮高等農林學校助教授佐藤清氏に依囑し、西洋庭園風に設計變へを爲し、面目を一新す。先づ中央の池には噴水を設け、周圍には高さ約四十センチ、石造の圓堤を繞らし、外側に高麗芝を植ゑ、王檜葉を配す。ポーチ前、小階下兩側にはヒマラヤ杉を植ゑ、正門より玄關までの通路左側は、一面に松、其の他の植込、下に高麗芝を植ゆ。其の他、講堂兩側の中庭を始め、校内全般に涉り、造園手入を施す。

御座所。 高島屋を招致して設計せしめ、本館二階校長室を全部改装洒掃して之に充て、壁には寶茶花瓶に花模様、の美しき壁紙を張り、絹紐の縁取り、床には豊麗なる濃臙脂、毛切絨氈を敷き詰め、窓は濃小豆天鷲絨の上飾に、キャラコチリチリ、レース、ブラインドを附け、

雅臙脂草花模様の重き緞帳を添へ、花臺には大王松を活け、蔓もどきを配らひ、質素ながら清楚高雅なる趣を呈す。

御次室及び列立拜謁室(二階)應接室も略同様の設備を爲す。

其の他、供奉近衛將校室(配屬將校室)、供奉宮内高等官室(五番教室)、同判任官室(十番教室)、扈從高等官室(會議室)、同判任官室(第六教室一部)、文部省事務室及び群馬縣官吏出張所(物理實驗室)、自動車技手室(受附)、サイドカー操縦士室(學生課室)等も、何れも壁は化粧塗を施し、木部塗料は全部塗り代へ、面目を更む。

御道筋手入れ。先づ正門外兩脇の溝には丈夫なる蓋を設け、一般奉迎奉送者の便に資し、且つ危険を防止することとす。正門の大扉は取り外し、正門より玄關までは、五噸の重壓に堪へ得るやう、蒸氣ローラーを用ひてマカダム敷込舗道とし、數回の試験を行ひて安全を期せり、當日は、其の上に厚さ三分の細砂を敷き打水を施す。

玄關より二階御座所まで、及び本館内御通路は、全部我が南洋委任

統治領産のカラオを製織したるマット(本校指導品)を敷き詰め、建物の御通路——紡織工場入口より應用化學科入口まで、應用化學科入口より奉拜所(運動場)まで、及び油脂工場前より紡織工場と機械科との間を眞直に、機械科横の門まで、主として本校生徒の勞作により、アスファルト舗装道路とす。

其の他、御道筋全體に涉りて、美化作業を爲し、塗料は全部塗り代へ、敷居の如き突然の高低あるところは、全部板を用ひて緩勾配とす。

配電線検査。配電線につきては平素細心の注意を怠らざるも、此の際特に電氣係主任の嚴密なる検査を遂げしむ。七月十七日、逓信省係員、群馬縣警察部保安課係員、東京電燈會社員等十數名來校、床下、天井裏に至るまで限なく取調べ、異狀無きを確かむ。

衛生

行幸内定と同時に、全校職員生徒の保健衛生には、特に細心の注意

を拂ひ、左記の通り實施せる外、機會ある毎に、學校長は、或は訓辭に、或は揭示に、職員生徒の自制戒心を促されたり。

六月八日 附屬商工專修學校第一回チブス豫防注射を行ふ。

同十一日 本校職員生徒第一回チブス豫防注射を行ふ。

同十五日 附屬商工專修學校第二回チブス豫防注射を行ふ。

同十八日 本校職員生徒第二回チブス豫防注射を行ふ。

同二十三日 本日より一週置き三回に涉り、縣立工業學校職員生徒のチブス豫防注射を行ふ。

九月一日 本日より、寄宿寮前庭にテント張りを設け、暑中休暇中歸省先各地より歸來の學生を、先づ此處に收容し一應健康診斷を行ひたる後、寄宿寮に入らしむることとす。

九月十一日 本校、縣立工業學校、並びに附屬商工專修學校全學生の健康診斷を行ふ。尙ほ本日より寄宿寮にては刺身の如き生物料理を禁ず。

同二十五日 全校職員學生宇都宮高等農林學校と對抗競技のため宇都宮市へ一泊旅行を爲したるため、念のため學生全部の健康診斷を行ふ。

同二十五日 附屬商工專修學校生徒多數、横須賀市に見學旅行を爲せるを以て、念のため其の健康診斷を行ふ。

十月一日 本日より三日間に涉り、本校、縣立工業學校、附屬商工專修學校全職員生徒赤痢豫防ワクチンの服用を爲す。

十月十日 本校々醫及び縣囑託醫立會ひの上全校職員の健康診斷を行ふ。

十月十二日 學校長唾液痰の検査及び檢便を行ふ。

十一月五日 本日より、連日分擔を定め、學生校内大掃除を行ふ。

同日 御座所、御次室、天覽研究室等嚴重消毒の上封印す。尙校内御通路全部に涉り、第一回清掃消毒法を施行す。

十一月十一日 本日より消毒濟御通路を立入禁止區域とし、一般

の通行を禁ず。

同日 御通路第二回消毒法施行。

同十五日 御通路等最後の消毒法を施行す。

警 備

七月十二日 第一次警備計画を立て左の通り実施す。

一、警備に關する參考として福井高等工業學校及び廣島高等工業學校の前例を調査し、重要事項を抜萃して警備員一同に配布す。

二、校内天覽御順路の危険なる高低箇所等調査。

一、建物の自然に破損したる箇所調査。

一、工場内の蒸氣、油等の滴下する箇所調査。

一、垣根の修理箇所調査。

一、校内御順路に落下物等の危険ある箇所調査。

十月十八日 第二次警備計画決定のため、左の諸案を議す。

一、警備期間及び警備方法。

一、職員及び學生警備の分擔。

一、學生警備隊の範圍。

一、學生警備隊の服裝。

十月十三日 左記の通り第三次警備方針及び細目を決定し、十

一月十二日より校内外徹宵警備を行ふ。

御臨幸警備細目

一、警備區域 校舎内外

職 員 校舎内警備

學 生 校舎外及び校庭警備

二、警備方法

各種建造物及各室の嚴密なる検査を行ひたる上、締切りて封印を爲す又火鉢、電氣ストーブ、瓦斯設備、電氣設備及び防火設備の點

檢を行ふ。(十一月十二日午前八時に封印せり)

三、警備人員の配當

(イ)左の五班に分つ

第一班(本館) 主任、吉岡助教授、井口履、小林履、西山履、小林周履、五十嵐履

第二班(色化) 主任、森本囑託、水越履、渡邊履、田村履、五十嵐履

第三班(紡織) 主任、神山助教授、奥村履、笠原履

第四班(應化) 主任、寺本囑託、日部履、豊田履、星野履

第五班(機械) 主任、佐々木教授、堀履、田卷履

(ロ)警備係及學生分擔

十一月十二日(月)午後六時より午前零時迄

主任、森本囑託、水越履、渡邊履、田村履、五十嵐履

色染化學科一年生井上恒治以下三十二名

同十三日(火)午前零時より午前八時迄

主任、神山助教授、奥村履、笠原履、三池履、小林履
紡織科一年生藍原正三以下三十三名
同十三日(火)午後六時より午前零時迄
主任、相田教授、鹽谷書記、日部履、豊田履、星野履
應用化學科一年生藍野正三以下三十九名
同十四日(水)午前零時より午前六時迄
主任、森田助教授、堀履、田卷履、小林(周)履、五十嵐履
機械科一年生東隆二郎以下三十七名
同十四日(水)午後六時より午前零時迄
主任、寺本囑託、奥村履、笠原履、宮城履、小林履
紡織科一年生藍原正三以下三十三名
同十五日(木)午前零時より午前八時迄
主任、吉岡助教授、水越履、渡邊履、田村履、五十嵐履
色染化學科一年生井上恒治以下三十二名



同十五日(木)午後六時より午前零時迄

主任佐々木教授、堀雇、田卷雇、小林(周)雇、五十嵐雇

機械科一年生東隆二郎以下三十七名

十一月十六日(金)午前零時より午前八時迄

主任相田教授、日部雇、豊田雇、星野雇

應用化學科一年生藍野正三以下三十九名

四、學生警備隊に關する規定

イ、學生警備隊本部は第十教室とす。

ロ、步哨は復哨とし巡視は二人宛行動するものとす。

ハ、步哨は表門外七ヶ所に配置す。

ニ、步哨巡視の勤務は一時間交代とし傳令は其都度派遣するものとす。

ホ、控學生は許可なく控所を離る可からず。

ヘ、事故發生の場合其一人は速に警備隊本部に急報し一人は如何



なることあるも其場所を離るべからず。

ト、學校周圍の堤防及柵の線の見張をなし不當の事を發見せば其

一人は速に警備隊本部に急報する事。

チ、服装は作業服正帽に(ゲートル)を穿ち佩劍帶銃とす雨天の場合
は適宜雨覆を用ふることを得。

五、學生警備隊の勤務時間割

一、夜の勤務時間は午後六時より午前零時迄を前班とし午前零時
より午前六時迄を後班とす。

六、學生警備隊の勤務配置は別に定む。

七、步哨に關する細則

イ、學生警備隊に步哨交代係を置く、步哨交代係は各科總代之に任
ず。

ロ、步哨交代係は一時間毎に步哨を交代せしめ警戒に任ず。

八、步哨の配置場所



- A 表門
- B 校長宅通用門
- C 應用化學科瓦斯發生所
- D 寄宿舎西門
- E 機械科西門
- F グラウンド南隅柵
- G グラウンド北隅柵

九、歩哨守則

A 表門歩哨

イ、表門出入者の見張をなす。
 ロ、表門出入を許す者 本校職員、生徒及入門證を所持する者、警察官、郵便、電信配達夫とす。其他の者にして必要とする者あらば當日の警備主任の指導を受くるものとす。
 ハ、門外附近の清淨保持の監視をなす。



- B 校長宅通用門歩哨
 イ、堤防及柵の見張をなし不審の事を發見せば其一人は速に警備隊本部に急報する事。
 ロ、事變發生の場合一人は警備隊に急報し他の一人は如何なる事あるも其場所を離るべからず。
- C 應用化學科瓦斯發生所歩哨
 Bと同様。
- D 寄宿舎西門
 Bと同様、但し變電所並に色染化學科機關室、石炭置場の警戒に任ず。
- E 機械科西門歩哨
 Bと同様、但し自動車々庫の警戒にも任ず。
- F 及 G の歩哨
 Bと同様。

交代係 井上恒治、郷田美久

應化一年				11月12日午後			11月15日午前		
				時 6-7	8-9	10-11	時 1-2	3-4	5-6
石伊	橋東	正宮	三次	A	B	C	D	E	F
岩大	下野	晴	七昇	B	C	D	E	F	G
角片	田岡	三	郎力	C	D	E	F	G	A
加鎌	藤倉	恭幹	一雄	D	E	F	G	A	B
木栗	村本		博璋	E	F	G	A	B	C
志相	方馬	輝順	隆一	F	G	A	B	C	D
高山	橋山	富	守藏	G	A	B	C	D	F

				11月12日午後			11月15日午前		
				時 7-8	9-10	11-12	時 0-1	2-3	4-5
田谷堤	中雄	眞正	一郎	A	B	C	D	E	F
徳長	永岡	憲太	雄郎	B	C	D	E	F	G
奈長	良谷	川川	隆男	C	D	E	F	G	A
東堀	野内	隼	實男	D	E	F	G	A	B
眞三	井木	福	茂文	E	F	G	A	B	C
山山	内本	正孝	紀雄	F	G	A	B	C	D
横吉	井澤	孝一	司郎	G	A	B	C	D	E

交代係 棚田巖、青野合一

紡織一年				11月13日午前			11月14日午後		
				時 0-1	2-3	4-5	時 7-8	9-10	11-12
藍青	原野	正正	三馨夫	A	B	C	D	E	F
池石	田井	政	治健	B	C	D	E	F	G
岩梅	崎田	善賢	彌治	C	D	E	F	G	A
榎金	本子	文	夫穂	D	E	F	G	A	B
唐小	澤泉	隆次	雄郎	E	F	G	A	B	C
小住	室山	貞正	二武	F	G	A	B	C	D
副谷	田口	喜	滋美	G	A	B	C	D	E

				11月13日午前			11月14日午後		
				時 1-2	3-4	5-6	時 6-7	8-9	10-11
土研初	屋谷	七勝	藏亮郎	A	B	C	D	E	F
平平星	岡本	重一	郎近	B	C	D	E	F	G
本馬	多路	善次	郎巳	C	D	E	F	G	A
水水	澤間	正雅	夫康	D	E	F	G	A	B
三三	輪	友	武治	E	F	G	A	B	C
森山	川本	謙良	三輔	F	G	A	B	C	D
吉吉	岡田	健正	三典	G	A	B	C	D	E

交代係 藍野正三、若林辰郎

應化一年	11月13日午後			11月16日午前		
	時 6-7	8-9	10-11	時 1-2	3-4	5-6
淺井龍太郎 安松保英司 板市橋村夫人 内田邦四郎 上野桂一 エドウィン、グエツ久 遠藤好安 小野寺東彦 金子原東助 小笹池野辰大 佐和喜 柴田喜一	A	B	C	D	E	F
	B	C	D	E	F	G
	C	D	E	F	G	A
	D	E	F	G	A	B
	E	F	G	A	B	C
	F	G	A	B	C	D
	G	A	B	C	D	E

	11月13日午後			11月16日午前		
	時 7-8	9-11	11-12	時 0-1	2-3	4-5
生野剛 須賀賀鼻 杉山龍 瀧山柳原幸 谷柳原 津秋岩 辻見友邦二 中野澤上文 福野田泉晨 眞町田規 松尾辰 三永信 三澤龜 田楠	A	B	C	D	E	F
	B	C	D	E	F	G
	C	D	E	F	G	A
	D	E	F	G	A	B
	E	F	G	A	B	C
	F	G	A	B	C	D
	G	A	B	C	D	E

交代係 陸田外一、池貝茂

機械一年	11月14日午前			11月15日午後		
	時 0-1	2-3	3-5	時 7-8	9-10	11-12
東新井隆二郎 井上博夫 岩谷勳二 魚住原善次 大川良助 大久島保正 岡田美隆 加賀納正 木小村仲清 住田久利 關井久哲 常見清	A	B	C	D	E	F
	B	C	D	E	F	G
	C	D	E	F	G	A
	D	E	F	G	A	B
	E	F	G	A	B	C
	F	G	A	B	C	D
	G	A	B	C	D	E

	11月14日午前			11月15日午後		
	時 1-2	3-4	5-6	時 6-7	8-9	10-11
寺中澤精史 中井島康二 長野村義一 早瀬野義 日根總兵衛 福細澤野敏 堀宮越崎善吉 森村島正 矢島正忠 山岸茂 吉田治 吉原知章 吉田原	A	B	C	D	E	F
	B	C	D	E	F	G
	C	D	E	F	G	A
	D	E	F	G	A	B
	E	F	G	A	B	C
	F	G	A	B	C	D
	G	A	B	C	D	E

職員警備係細則

- 一、警備職員各班主任は係員と共に十一月十二日迄に各種建造物及教室天井裏開窓床等の嚴密なる検査を行ふ事。
- 二、警備係は貳人宛一時間毎に校内封印箇所を検索すること。
- 三、検査中封印箇所に変状あらば一人は直に警備主任に通告すること。
- 四、警備中事故を發見せば直に警備主任が警察當局に通告すること。
- 五、當直警備主任は職員並に學生の指導監督に任ずるものとす。
- 六、警備勤務職員及學生は翌日正午出勤及通學するものとす。
- 七、警備勤務者にして事故あるときは前日或は當日警備主任迄申出づること、理由なく勤務を怠ることを許さず。
- 八、附屬專修學校卒業生有志の警備配當次の如し。
十一月十二日 前班、田卷忠一郎、稻原貞次、岩崎又藏、

同後班、嘉村新太郎

- | | | |
|---|-----|--------------------|
| 同 | 十三日 | 前班、高梨元雄、下山國男、小泉理一 |
| 同 | 十四日 | 前班、嘉村新太郎、櫻井一、田卷忠一郎 |
| | | 後班、須田米吉、岩崎又藏、小泉理一 |
| 同 | 十五日 | 前班、 |
| | | 後班、高梨元雄、下山國男 |

九、十六日午前七時三十分柴尾佐市憲兵中尉下士貳名、上等兵一名警備の任に當り尙警官三名校内警備の任に當る。

附記 實施に際し、縣立工業學校職員加賀山猪三郎、永井彦熊、栗原忠也、菊谷菊男、山口謹一の諸氏應援せられたり。

御安泰祈願式

十月十九日全校職員生徒は學校長引卒の下に、市内天満宮社前に
額つき 聖上陛下御巡幸中御安泰に涉らせらるゝやう、祈願式を

行ふ。修祓の後齋主の祝詞奏上あり、續いて學校長玉串を奉奠し、一同敬禮をなして祈念を籠む。

全校修祓

十一月三日本校講堂に於て、本校全員及び校内修祓式を行ひ、續いて御座所並びに御通路全般に涉り修祓祈願を行ふ。

遙拜式

十一月十一日午後一時 聖上陛下には秋季特別大演習御統裁のため宮城御發輦あらせらるゝにつき、全校職員生徒運動場に整列し、宮城に向ひ遙拜式を行ふ。學校長は前橋に赴き、御召列車着御午後三時三十五分を奉迎す。

天機奉伺

十一月二日學校長は前橋市に赴き、大本營に參入し、天機を奉伺せり。

賜饌

十一月十四日、左記本校職員は高崎第十五聯隊營内に於る賜饌に召さるゝ光榮を擔ひ、御料理の外御紋菓、振武杯等を拜領せり。

學校長西田博太郎、教授太田代唯六、同小川芳太郎、同高桑藤代吉、同杉浦二郎、同豊田今吉、同大澤治作、同平田文夫、同島田慶一、講師飯野知次、同北村友圭

御調度品 十一月十五日午後七時御調度品到着、宮内官來校、御座所及び

御次の間に備ふ。

聖駕を迎へまつりて

桐生驛奉迎

愈、光榮の日は來りぬ。此の日天氣清朗、三山(赤城、榛名、妙義)の間、瑞氣天地に漲り、人喜悅に輝く。

午前九時四十一分、御召列車は早くも桐生驛着御、畏くも聖上陛下には、連日の軍事御統裁に、些か御疲勞の御氣色も拜せず、桐生市長以下官民の熱誠なる奉迎裏に、略式自動車鹵簿を整へさせられ、肅々として我が桐生高等工業學校に向はせらる。

御着 輦

之より先、校門内には、職員、生徒、卒業生、職員夫人等約四百名堵列して着御を御待ち申上ぐ。

正門前より構内は、朝まだきより隈なく洒掃せられ、玄關までの御通路は盡く細砂を布き、打水を施し、池上水禽群れ浮くところ、噴水音もなく躍りて、常に見慣れたる校庭なれど、今日は何となく神々しき心地せらる。

やがて門前、忽ち肅然たる氣はひするよと見る間に、供奉員、扈從者等の自動車を從へさせられ、鳳輦ゆるやかに校門を入御、畏くも聖上陛下には、龍顏殊の外麗はしく、奉迎の職員、卒業生等に御會釋を賜ひつゝ、玄關に着御あらせらる。時正に九時四十六分。御車を降り立たせ給へる。陛下には、鞠躬如として御出迎へ奉れる學校長を先導とし、甘露寺侍從、湯淺宮内大臣、本庄侍從、武官長、大金侍從、町村行幸主務官、久松侍從以下の供奉員、後藤内務大臣、内田鐵道大臣、畑第十四師團長、平賀第二十八旅團長、田代憲兵司令官、唐澤警保局長以下の扈從員を隨へさせられ、靜かに玉歩を本校内に移させ給ふ。

工業ニ關スル授業ニ主力ヲ集中シ、機械科ニ於キマシテハ、内燃機關、及製造用諸機械ノ製作技術ノ導指ニ主力ヲ注イデ居リマス。

三ヶ年修業ノ本科生ノ外ニ、學科ノ一部ダケヲ學バントスルモノノ爲メニ、選科生及聽講生ノ規程ヲ設ケ、別ニ中等學校卒業者ニシテ工業技術ヲ速修致サント志シマスモノノ爲メニ、修業一ヶ年ノ別科ヲ特設シ、思想ヲ善導シツ、専ラ實地作業ヲ授業シテ居リマス、又地方ノ徒弟ヲ教育スルタメ、商工專修學校ヲ附設致シマシテ、晝間實務ニ従事シテ居リマスル者ノ爲ニ、夜間三時間ヅ、指導ヲ與ヘテ居リマス。

現在、本科生四百二名、選科生及聽講生七十九名、別科生四十五名、附屬夜學校生一百七十五名、合計七百二名ガ在學致シテ居リマシテ、内比律賓人二名、印度人一名、中華民國人一名ガ在學シテ居リマス。


本校ノ教育方針ハ常ニ 聖旨ヲ奉戴致シマシテ、我國體ノ精華ト、建國ノ精神トヲ強調シ、德操、智能ノ涵養ト併セテ、體育ト武道トヲ獎

勵シマシテ、質實剛健ノ氣風ヲ養ヒ、斯ク致シマシテ、専門技術ノ學理ヲ辨ヘナガラ、能ク工業労働者ニ伍シテ勞務ニ服シ、技術上ノ研究ヲ致シ、發明發見ヲ遂ゲマス様ナ、中堅技術者ノ養成ヲ目標ト致シテ居リマス。

現在、本校ニ職ヲ奉ジテ居リマス人員ハ百九十七名、内直接生徒指導ノ重責ヲ負ヒマス者、五十七名デアリマシテ、餘力ヲ以テ、夫々學術ノ研究ヲ續ケ、着々發明發見ヲ完成シ、特許及實用新案權ヲ得マシタモノ三十九件、ソノ内實際工業化致シマシテ、國家産業ノ一端ニ貢獻シテ居リマスモノ、漸ク十件ニ達シマシタ。

本校ノ晝間卒業業者一千二百三十三名ハ、全國ニ散在シマシテ工業ニ従事シ、遠ク南米、南洋デ働イテ居ル者モ御座リマス。又夜學ノ卒業生五百十四名ハ、概ネ桐生市内織物業ニ従事シ、精勵致シテ居リマス。

今日畏クモ 御臨幸ヲ仰ギマシテ、本校ノ實況ヲ 天覽ニ供シ奉



リマス光榮ヲ忝ウ致シマシタ事ハ、臣等一同誠ニ恐懼感激ニ堪ヘマ
セン處デ御座リマス。今後更ニ精勵努力ヲ加ヘ、一層本分ヲ盡シ
聖恩ノ萬分一ニ應ヘ奉ル事ヲ、固ク覺悟致シテ居リマスル。

奉呈書類

本校概況奏上の外、學校長は宮内官の手を経て、左記書類を奉呈せ
り。

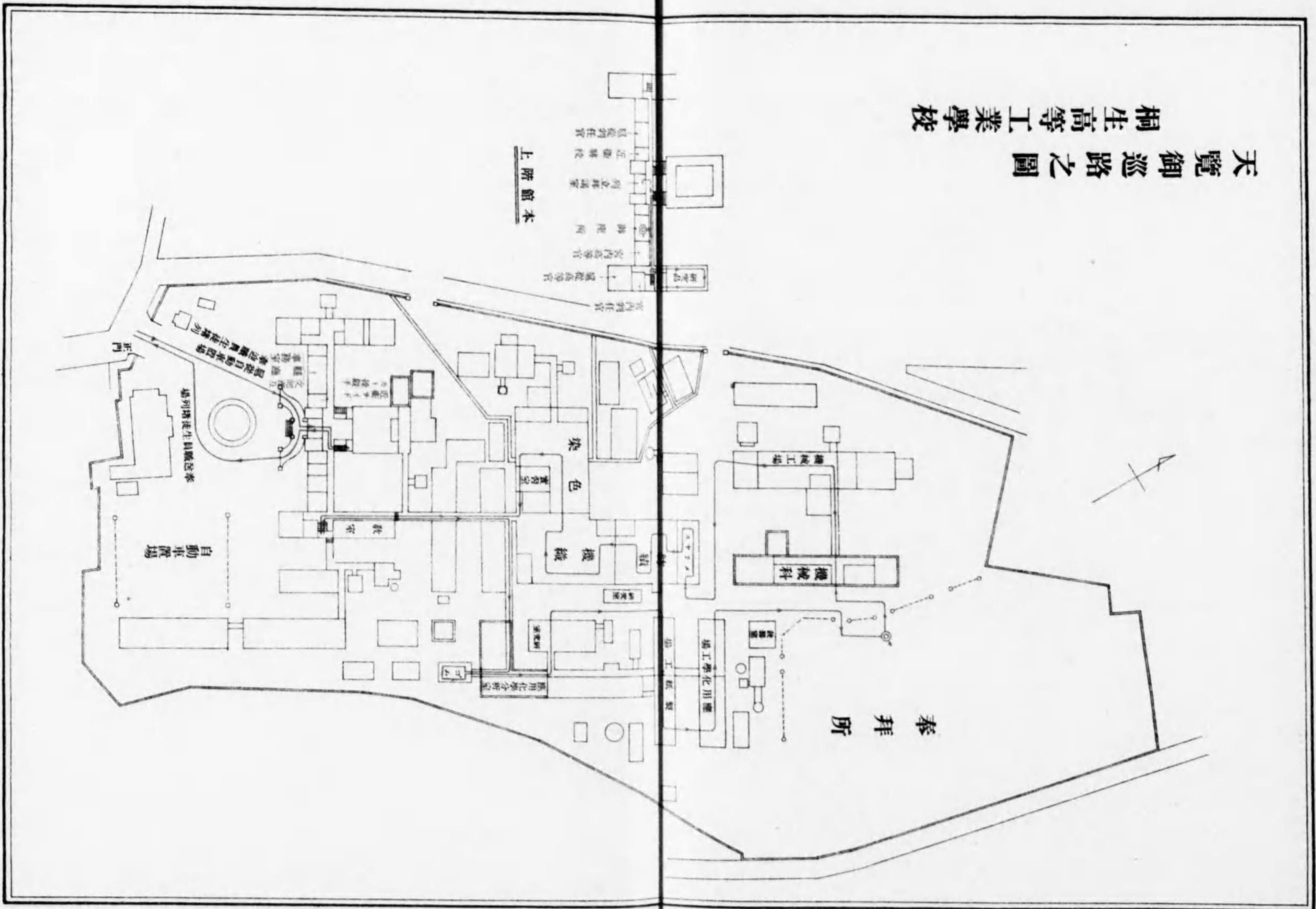
- 一、桐生高等工業學校沿革大要
- 一、桐生高等工業學校現狀概要奏上書
- 一、拜謁者名簿

校内御巡覽

畏くも 聖上陛下には、暫しの御憇ひの間もあらせられず、校内御
巡覽に出で立たせ給ひ、先づ玉歩を天覽研究品室に運ばせ給ふ。

桐生高等工業學校

天覽御巡路之圖





天覽の光榮に浴したる本校職員の研究成績品は左記十六種なるが、一々玉歩を止めさせられ、學校長の説明奏上を御熱心に御聽取遊ばされ、種々御下問を賜はりたるのみならず、中には畏くも御手袋を脱せさせ給ひて製品に御手を觸れさせ給ひたるものすらあり、之が爲め同室の御豫定時間五分間は、十數分に達したる程なり。

天覽研究品

染料褪色の化學變化に關する研究

研究者 教授 岩本健二

本研究は、染料中日光により褪色し易きものの化學變化を研究し、その褪色作用を防止せんとするを目的とし、先づクリスタルヴァイオレット及びヴィクトリアグリーン(青竹)の如き、本邦に多く使用せらるる染料を選び、精製して化學的に純粹となし、之を日光に露出して褪色せしめ、生成せる物質の化學構造を決定したる結果、日光は、空氣中に於てはその酸化作用を、又空氣の存在せざる場合に於ては、その還元作用を促進し、何れも色素を破壊して褪色を起すものなるを確證し得たり。よつて、今後は更にその促進作用の防止法を攻究せ

んとす。

陳列品

- | | |
|-----------------|-----|
| 一、研究解説書臺付 | 一箇 |
| 一、染料中間體及其分解物、瓶入 | 二十箇 |
| 一、染色せる人絹布見本 | 四枚 |

人絹織物の異色染研究

研究者 教授 吉田善一郎

従來の異色染は、染料に對する親和力を全然異にする天然絹絲或は羊毛の如き動物性原料と、人造絹絲、人造羊毛或は木綿の如き植物性原料との異種原料の交織物のみに限られたるも、本研究は、同種原料の織物に適用せんことを目的としたるものにして、人造絹絲織物の經緯何れか一方の原料に、豫め特殊金屬鹽類及び有機物質を固着



して、或種染料に對する親和力を消失せしめ、之と豫備加工せざる人造絹絲とを用ひ、縞或は模様ある織物を白地に織上げたる後、經緯絲を任意の色相に染色し得、從來よりも一層廣範圍に、流行色の變化に速かに順應せしめ得ることを立證せり。

陳列品

- 一、内地向織物に應用せるもの 三 點
- 一、メリヤスに應用せるもの 三 點
- 一、輸出向織物に應用せるもの 二 點

毛 皮 染

研究者 講師 加賀山猪三郎


本邦に於ける毛皮染は、從來殆ど家内工業として極めて幼稚なる方法によつて行はれ、その製品に見るべきものなく、用途は相當多き



にも係らず、發達遅々たる状態なり。近年毛皮の需要頓に増加し、就中兎毛皮は、高級毛皮の模造品製作に使用せられ、その染色の必要生じたるを以て、特に需要多き黒及び赤染につき研究を遂げたり。

陳列品

- 一、標 本
- 桐、硝子箱入 一 箇
- 瓶 入 十五箇
- 標本帖 一 冊
- 一、加工工程順序説明圖 一 葉
- 一、研究内容説明書 一 冊



無害毛染劑に關する研究


研究者 講師 森本保雄

46

坊間販賣の染毛劑は「パラフェニレンジアミン」を主劑とせるもの多く、往々、戰慄すべき皮膚中毒を起すことあるが故に、この中毒作用を出來得る限り防止せんとするを、研究の目的とし、先づ「パラアミノ・デフェニールアミン」「パラアミノ・デフェニールアミンスルホン酸」「パラフェニレンジアミンスルホン酸」及び、之等の誘導體たる各種鹽類を合成する方法を究め、之等を主劑とする染毛劑を製造せり。

陳列品

- 一、藥品瓶入 五十八箇
- 一、染色せる毛髮標本額 一箇



生絲強伸度増進に關する研究

研究者 教授 豊田今吉

本研究は、從來の精練法による絹纖維脆弱化、並に變色を防止せんことを目的として研究し、苛性曹達の一定稀薄溶液(2/100、二百倍量)を用ふれば、最良なることを確證したるを以て、その應用上適當なる裝置を案出せんとす。

陳列品

- 一、生絲
- 一、石鹼精練絹
- 一、石鹼精練に依る變色絹
- 一、石鹼精練に依る脆弱絹
- 一、苛性曹達精練絹

47



一、薬灰精練絹(舊式)

絹の精練廢液より分離したる物質

研究者 教授 豊田 今吉

本研究は、絹精練廢液の利用を目的とし、先づ、之より諸物質の分離を試み、次のものを得たり。

- 一、セリシンⅠ蛋白(井上柳梧氏の分離にかかる β に似たるもの)
 - 二、セリシンⅡ蛋白(同氏の分離にかかる α に似たるもの)
 - 三、セリシンⅢ蛋白(本研究により分離)
 - 四、メラニン系色素(本研究により分離)
 - 五、新らしく分離したる物質(目下化学成分及び性質に就き研究中)
 - 六、鹽化加里を主體とする無機アルカリ化合物
- 附、蠟質(生絲より得たるもの)



陳列品

- 一、苛性曹達に依る絹精練廢液
- 一、石鹼に依る絹精練廢液
- 一、セリシンⅠ蛋白
- 一、セリシンⅡ蛋白
- 一、セリシンⅢ蛋白(本研究に依り分離)
- 一、メラニン系色素
- 一、新らしく分離したる物質
- 一、鹽化加里を主體とする物質
- 一、蠟質(生絲より得たるもの)

無接觸回轉計の研究

研究者 教授 森 平三郎

無接觸廻轉計には、照明型及びシャッター型の二種ありて、前者は、回轉體を之と同一週期に明滅する照明燈によつて照し、後者は、同一週期に開閉するシャッターを通して、外見上靜止せる回轉體を觀測するにあれど、何れも同期速度測定機構に難點あるを免れず。本研究に於ては、一般紡織工場に實用せらるべき、簡易にして確實なる、紡錘用無接觸回轉計の新考案を目標として、一定速度を以て回轉する圓盤の同心圓周上に、規視孔群を配列したる、シャッター型回轉計を設計製作し、その目的を達成したり。

陳列品

一、無接觸回轉計

一臺

毛細管を應用せる糸の太さの均等度試験器の考案

研究者 教授 森 平三郎

絲に存する太さの不同は、織物又は、編物の品質を決定する要素なるも、之を數量的に測定するは、從來難事に屬せり。本研究は、之を達成する爲めに、絲をして、真空に近き管に接續せる毛細管中を通過せしめ、絲の太さに應ずる毛細管中の空氣抵抗の變化が、真空度を變化する事實を應用せる、均等度試験器を考案せんことを目的とし、絲の長さに添ふ負壓力、即ち、太さの曲線を自動式に記録せしむると同時に、各太さ段階の出現回數、及び、その長さの積算計を製作し、絲の長區間に互る試験を可能ならしめ、紡絲價值の判定に、正確なる一準據を與ふることに成功せり。

陳列品

一、試験装置

一、實驗例

一式

四例

光電管を應用せる絲の太さの均等 度試験器の考案

研究者 教授 森 平三郎

絲に於ける短區間の不同は、光電管を應用せる絲の太さの均等度試験器によつて測定せられ得べきを豫想し、先づ、光電管の直前に絲と直交する細き間隙を設け、一定の光源によつて之を照射し、絲の太さに應じて變化する光電流を三極真空管により増幅擴大し、以て、目的を達成すべき試験器を設計製作し、更に、その性能の研究に及び、絲の太さと指示電流値との關係を、理論と實際より検討して、その信頼

價値に論及し、あはせて、この種計器の設計、並に使用上の注意事項を明になしたり。

陳列品

一、試験装置

一、實驗例

一式

三例

摩擦試験機の考案

研究者 教授 相田祐次郎

本機は、各種布帛の摩擦に對する耐久力を、比較研究せんが爲めに考案せるものにて、試験せらるべき布帛片に、終始一定の張力を加へ得るが故に、從來の摩擦試験機よりも、遙かに正確なる實測を爲すことを得。

陳列品



- 一、摩擦試験機械 一臺
- 一、摩擦比較試験圖表 一葉
- 一、摩擦と抗張力圖表 一葉
- 一、摩擦破壊試験表 一葉

緯絲管捲機に於ける導絲子及び
その移動装置の考案

研究者 助手 根岸榮三郎

本研究によつて、導絲子及びその移動装置を考案し、管捲機に於ける往復運動の部分を除き、導絲子の移動を積極的ならしめ、錘の回轉を著しく増加し、且つ、導絲子と管絲面との接觸による絲條表面の損傷及び導絲子の不規則移動による不正管絲形成を防止得たるを以て、この装置を使用すれば、製織能率を高め、織布品位を向上する



ことを得。

陳列品

- 一、特許緯絲管捲機

一臺

シミレイン絲

研究者 講師 飯野知次
同 大山仲二

人造絹絲屑を截斷し、綿絲紡績機械によつて紡出し、新規織物原絲として成功したる紡績人絹絲にして、毛絲に酷似せる觸感を有し、婦人コート地、小供服地、毛布襟卷等に適する「ステイプル・ファイバー」の一種なり。

陳列品

- 一、シミレイン絲



各種	六玉
一、シミレイン應用織物	
婦人子供服地	一點
同 外套地	一點
毛 布	一點
襟 卷	六點

ゴム硫化促進劑の本性に關する研究

研究者 教授 島 田 慶 一

本研究に於ては、現時ゴム製造工業に於て、ゴムと硫黄との結合を促進せしむる爲め使用せらるる硫化促進劑の本性を闡明し、以て、ゴム硫化促進機構を解説せんとするを目的とし、市販促進劑三十餘種につき、各々、ゴム溶液の粘度に及ぼす影響を調査したるに、供試促進



劑中には、ゴム重合分子を崩壊せしむるものと、ゴムの物理的構造を分解せしむるものとの二種類あるを立證し得たるが故に、本事實の理論を調査研究し、終に、ゴム硫化促進作用の機構に對する學理的な新見解に到達することを得たり。

陳列品

一、圖	一葉
一、研究資料入硝子瓶	二十箇
一、報文別刷	十一篇

酵素精練劑

研究者 教授 伊 澤 弘 一

生絲及布帛の精練劑として、我委任統治圈諸島に産するカリカババイヤの果實より採取せる、蛋白分解酵素パバインを主劑となさん

ことを研究し、中性又は弱酸性液に於て精練するに適し、アルカリに對し、抵抗性の少き酸性染料の如きを以て染色せる絹を、安全に精練し得、又、醋酸人造絹絲の如く、アルカリにより分解さるる人造纖維の交織物を、これが光澤を損することなく、精練し得ること可能なるものを製出し得たり。唯、本劑の缺點は、強撚絲を使用せる、織物の精練に於ては充分にその効力を認め得ざるに存するを以て、更にこの改良に、研究を進めつつあり。

陳列品

- | | |
|---------------|----|
| 一、バイン 酵素見本 | 一瓶 |
| 一、酵素精練劑見本 | 一瓶 |
| 一、酵素練生絲見本 | 一組 |
| 一、同 アセテート人絹見本 | 一組 |
| 一、同 黃絹絲見本 | 一組 |
| 一、同 染色生絲見本 | 一組 |

室内を一樣溫度にする爲の壁 形の研究

研究者 教授 田村民平

暖房、或は冷房装置によつて、室の内外に溫度差を作るとき、厚さ一樣なる壁にては、内壁隅角部の溫度下降、或は上昇し、且つ、熱の出入他部よりも多くなり、従つて、室内溫度を各所一樣になすこと甚困難なり。然れども、隅角部に於ける内壁面を適當に彎曲すれば、内壁各部より出入する熱量と、その溫度とを一樣にすることを得、延いて、室内溫度を、善く一樣ならしむる上に有効なり。本研究は、この有効彎曲面の形を決定したるものにして、この形の壁を、隅角部が直角の壁に比すれば、材料に於ては、一・八・九パーセントを多く要するも、熱の出入量に於ては、三・一・三パーセントを減ず。故に、ここに決定したる彎曲

面を有する壁は、熱絶縁の點に於ても亦有効なるを知る。

陳列品

- 一、實驗裝置 一組
- 一、等温線圖 二葉
- 一、隅角部壁形模型 四箇

群馬縣産蟻類

研究者 助教授 吉岡春之助

世界各國に於て今日まで知られたる蟻類は、種、亞種、變種を合せて六千數百種あり。本邦に於ては、南洋を除き二百種に近き蟻類を産し、就中内地には約九十種を産し、他は、主として臺灣に産す。又、樺太、朝鮮産のものは、北部アジア大陸と共通の種類多きにも係らず、それ等を本州中部の本縣内に發見し、蟻の地理的分布上興味を感ず。研

究者の調査により、本縣内には、三十餘種を産すること判明し、その大多數は、舊北區アジア及びヨーロッパの寒帶、温帶地方のものに屬すれども、若干、東洋區アジアの亞熱帶、熱帶地方のものを混じ、その中には、恐らく本縣を以てその北限と看做し得べき種類もあり。標本中、屬名のみを記せるものは、研究者の發見せる新種未記載にして、赤丸を附せるは、本州産として始めて本縣に於て採集せるものなり。

陳列品

- 一、群馬縣産蟻類 三箱
- 第一號箱 クマアリア科 二十一種
- 第二號箱 フタフシアリア科 十三種
- 第三號箱 ルリアリア科三種及び數種の蟻の變態多形、營集材料等の標本
- 一、顯微鏡 ウロコアリ四十倍擴大

應用化學科

應用化學科にては、先づ護謄研究室に成らせられ、それより本校特設の製紙工場にて廢紙利用の抄紙を、油脂工場にて石鹼製造、桑紙抄造、特許人絹回收法を審さに、天覽あらせられしが、其の間、或は製品を御手づから取り上げ御覽ぜさせ給ひ、或は御道筋に面したる生徒實習室に、學校長の御先導も待たせ給はず、御自ら入御あらせらるゝなど、御熱心の程は、學校長始め職員生徒をいたく恐懼感激せしめたるよし洩れ承る。

奉拜所

之より先、奉拜所(本校運動場)の大柱には、高く日章旗を掲げ、本校職員學生約一千名を始めとして、桐生市、山田、新田、邑樂、勢多の諸郡より走せ參じたる男女中等學校生徒二千五百名、小學校生徒一萬五千名、

之等諸學校の職員を加へて、合計二萬に近き若き國民が、さしもに廣き運動場を埋め盡して、御尊影奉拜の光榮を翹首御待ち申上ぐ。

やがて、聖上陛下には、學校長御先導のもとに、靜かに玉歩を移させられ、機械科前面より、奉拜所に入御、設けの高御座に打立たせ給ふ。晩秋の澄み渡りたる大空の下、燦々として降りそゞ朝の目を浴びさせて、うち立たせ給ふ御姿の神々しさ、一同たゞ御威光に打たれて、自づと頭は垂れ、そのまゝ最敬禮となるに、畏くもいと鄭重なる御答禮を賜はり、次で群馬縣知事の發聲につれ、天皇陛下萬歲を三唱し奉りたるに、之にも御擧手の御答禮を賜ひたるが、二萬の若人の赤誠より迸り出る聲々は、桐生川によりて境を接する栃木縣の山々まで、兩毛の山川草木期せずして、聖壽無窮の祈念を唱和するに似たり。かくて一同は、たゞ夢見るやうの心地して、御退出の御後を目送申し上げ、深き感激に暫しは我を忘れて立ちつくしたり。

機 械 科

次に奉拜所より機械科表入口に入御あらせられ、渡り廊下を経て、同科工場に成らせられ、學生の作業を、いと御丁寧に天覽を賜ひたるが、中にも同科三學年生の製作したる旋盤には、特別の御注意を垂れたまひしよし洩れ承る。

64

紡 織 科

紡織科にては、先づ莫大小部に、シャツ、靴下等の製造實況を櫛はせられ、紡績、機械部にては本校紡織科發明のシミレーン纖維及び蓆織機械並びに各種本校製品に、特に御感興を深うせられ、續いて

色 染 化 學 科

色染化學科にても生徒の作業は特に御熱心に天覽を賜はりたる

が、中にも手拭染工程、型紙切り、モスリン友禪、毛燒の工程、染料製造等は特に詳細に御覽を賜はりたるやに拜聞す。

かくて、御豫定の四十分は延長され六十四分に互りたるが、此の長時間の校内御巡覽中、申すも畏けれど、些か御疲勞、御倦怠の御様子も拜せず、學校長の説明奏上には絶えず、御興深げに御頷かせ給ひ、中にも學生の作業、教官の研究、本校の製品等に特別の御感興を寄せさせ給ひ、時々専門的の御下問を賜はり、學校長も額に汗する程に感じたるよし、まことに學事御獎勵の、廣く深き大御心の程も推せられて、畏しとも畏し。

還 御

聖上陛下には一旦御座所に御歸還あらせられたる後、御小憩の暇もあらせられず、玄關に降り立たせ給ひ、御函簿を整へさせられ、奉送の職員、學生、卒業生、職員夫人等に、一々御擧手の御答禮を賜ひつゝ、天機

65



まことに麗はしく、校門を出御、第二の御臨幸先、市内西小學校に向は
せたまふ。

學校長は直ちに自動車にて、西小學校まで御扈從申上げ、尙ほ桐生
驛に到りて、足利市に向はせらるゝ御召列車發御を奉送申上げたり。

行幸後記

奉賽式

十一月十六日正午、無事本校空前の光榮に浴し得たるを以て、學校
長以下職員生徒一同は市内天満宮社前に額づき、奉賽式を舉行せり。

御禮言上

十六日午後五時、學校長は、前橋市に赴き、行幸先よりの還御を待ち
奉り大本營に參入、本校行幸に關し、御禮を言上せり。

御親閱

聖上陛下には、地方行幸第三日(十七日)一ノ宮貫前神社に御親拜の後、
富岡中學校に御立寄遊ばされ、それより高崎歩兵第十五聯隊營内に



於て群馬、埼玉、茨城、栃木、長野、新潟六縣の在郷軍人を御親閱遊ばされ、續いて乗附練兵場に臨御、同じく六縣の大學、高等專門學校學生、男女中等學校生徒、青年訓練所及び實業補習學校生徒、男女青年團員を御親閱あらせらる。參加人員約四萬三千、内男子分列部隊三萬五千餘、女子奉唱隊七千餘なり。本校よりは二、三學年學生全部、合計二百十九名、配屬將校藤田中佐、引卒の下に、森少尉、教授、吉田少尉、教授、千明特務曹長、學生課長、附添ひ、當日午前二時、校庭出發、光榮に參加せり。聖上陛下には、午後二時三十分、嘯曉たる君が代の吹奏裡に、式場に着御、設けの正面高御座に立御あらせ給ふ。かくて參加部隊は十六集團に分れ、軍樂隊の行進曲につれ、群馬師範を先頭に分列行進を開始す。本校學生は最後を飾る第十六集團大學、高專部隊に屬して、歩武堂々、隊伍整々、天晴れ平素鍛練の精神を發揮したり。次いで女子奉唱部隊は兩翼より玉座御前に前進し、奉迎歌を奉唱、引き續き全員、君が代を合唱、金澤群馬縣知事の發聲にて「萬歲」を三唱申し上ぐ。



此の間、實に四十五分、畏くも 聖上陛下には終始御直立のまゝ、式を終へさせ給ひ、全員の異常なる感激の裡に、午後三時十五分、天機殊の外麗はしく還御あらせらる。尙ほ本校よりは學校長以下職員十數名、陪觀を差許され、參列したり。

御 陪 食

十七日午後六時半、西田校長は行在所に召され、松田文部大臣、後藤内務大臣、内田鐵道大臣、湯淺宮内大臣、本庄侍從武官長、畑陸軍中將以下、地方功勞者等約四十名と共に御陪食仰付られたるが、其の際、畏くも 聖上陛下より我が桐生高等工業學校の實績に關し、御嘉賞御激勵の御言葉を賜りたるのみならず、御臨幸に際し、一時間以上に互り詳細に 天覽を賜ひたるに、尙ほ時間の足らざりしは遺憾なりし旨の、有り難き御誼を拜したるよし、まことに空前絶後の光榮にして、本

校々史に永く燦然たる光彩を添ふるものと云ふべし。

御還幸奉送

十八日 聖上陛下には前橋行在所を發御、御還幸の途に就かせらるゝにつき、午前九時學生を校庭に集合せしめ、遙拜奉送申上ぐ。尙ほ學校長は前橋驛に走せ參じ、御召列車發御を奉送申上げたり。

70

校内公開縦覽

二十一、二十二兩日、本校内を一般市民に開放し、天覽の御跡を拜觀せしめ、御聖徳を偲ばしむるよすがとしたり。尙ほ同時に實業教育五十週年祝賀の意をも兼ね、兩日に互る入場者一萬五千、頗る意義深き催しなりき。

記念日及び記念事業

本校にては、この千載一遇の光榮を、單に一時的の感激興奮に終らしむることなく、永遠に互つて有意義ならしめむが爲め、十一月十六日を御臨幸記念日とし、年々此の感激を新たにするこゝし、なほ別に記念事業を企劃し、十九日左記の通り記念事業計劃委員委囑せられたり。

委員長 太田代教授

委員 杉浦教授、大澤教授、島田教授、森教授、吉田教授、長屋教授、眞野教授、岩本教授、松島教授、森田助教授

記念事業の中、本稿脱稿までに決定せる事項左の如し。

一、記念館及記念碑建設

一、記念誌編纂發行

一、記念品分配

なほ記念誌謹製實行委員として大澤治作、吉田善一郎、吉田六郎、周東隆一の四氏、記念品製作實行委員としては、太田代唯六、神山房次郎、

第二篇



熊野御堂晋田卷忠一郎の四氏委嘱せられたり記念館及び記念碑に就ても遠からず委員の發表を見る豫定なり。

- 一、鳳輦を迎へまつりて
(西田校長謹話)
- 二、感激に燃ゆる職員學生
及び卒業生
- 三、新聞記事

鳳輦を迎へまつりて

十一月十九日

西田校長謹話

今回本校の一大光榮事についての感想は、十六日當日の直後に於て申上げましたが、願れば一年前、即昭和八年十二月九日頃の新聞に、本縣中心の大演習が行はるべしとの事が現はれましたので、私はその十二月九日から或は一大光榮事の起りもせんかと心に豫感しまして、密かに奉迎の準備にかかつたのであります。而して十二月末より正月の中に全體のプランを立て、それから本年の二月十六日に、始めて學校内の多數の先生方に私の計畫の大部分を申上げて、三十日に詳細なるプランを校内庶務會計に申渡したのであります。それから六月十五日になつて、始めて先生方に各方面の委員の分擔方をお願しました。

爾來職員學生の協力により、着々準備を進め、私としては文部省、縣廳、宮内省等と折衝したのであります。その間特に職員、學生、生徒には衛生に注意を促し、多少壓迫的でありましたけれども、寄宿寮の如きは刺身の様な生物の料理をも禁じ、悉く糞物焼物で我慢して戴き、幸に一人の悪い病人も出さず、全校一致残らずこの光榮に浴するところが出来たのは、誠に喜ぶべき事でありませぬ。

いづれ詳しい内容に就いては、記録として遺して置きますが、随分仕事も骨が折れました。例へば、かねて小使に命じ、古い答案用紙を用ひて状袋二千五百枚を作らせておき、此の際の用途に當てたのであります。之が只今では、五十枚しか私の手許に残つて居りません。之は先生方に對する、私の依頼や通達等に用ひたのですが、多い時は、一日に二百五十枚も、校内をかけ巡つた事があります。實に山の如くありました封筒が、今は殆ど残つて居りませんので、よくもこんなに使つたものと、自分乍ら驚かされました。又歸つて來た状袋を

重ねて使用した向もありますので、全部では三千通以上も駆け巡つたのであります。

さて、お蔭で緊張した氣分で、準備に没頭する事が出来ました。又私に對して、小川教授を初め縣立工業の先生や生徒方等から、至誠をこめた神符を戴き、これを身につけて、萬遺憾なきを期しましたが、萬一の事あれば切腹は覺悟で居りました。然し今日では、幸に學校としては無事光榮に浴する事が出来、私個人としても、腹を切らずにお目にかかる事が出来ましたから、今日謹で刀を仕舞はうと思ひます。さて、新聞で御覽の通り、畏れ多くも、鹵簿前驅の失態がありました。私は當日の前の晩にも、何卒一切の間違のない様にと念じて居つたのであります。遂にあの間違がありました。當日、私が玄關御出迎の間に合つたのは、誠に奇蹟的でありまして、私が一秒遅れば、大變な事件が起つて居つたのであります。私は一秒を争つて轉る如くかけつけ、玄關で佇立しました時に、幸ひ陛下には未だ御車の中に、

御腰を御掛になつて入らせられました。運轉手の心遣ひは非常なものであつたと思ひます。それから謹んで御先導申上げ、幸に大過なく御迎へする事が出来ました。實に御出迎の時には、私の動悸は鳴りをうつて、どう云ふ風に二階から下りたのか、わかりませんでした。

幸ひ、藤田中佐の鋭き最敬禮の聲を聞き、飛び出しましたが、その瞬間はおぼえません。全く心臓が破裂しさうでした。随分ふるへて倒れさうにも思はれ、非常なる胸騒ぎが致しましたが、ぐつと丹田に力を籠め、漸く冷靜になり、重大任務を果す事が出来ました。世の中に、神様の御護りのある事を疑ふ人もありますけれども、私の今回の幸は、神護即ち神のお助があつたものと、感謝致して居ります。早速御還幸の後、天満宮に御禮に参りました。神様は自ら助くる者を助く、此の間揭示しました通り、*"Heaven helps those who help themselves."*と云ふ言葉がありますが、本校諸君と共に、全力を盡して自ら助け、神

のお守護があつて、重大な危機一髪の事件をまぬがれ、深く神に感謝して居ります。

文部大臣の如きは、もしあの時私が御出迎の間にあはなければ、まことに恐懼に堪へぬ大事件を生じた、縣廳、宮内省、總てが校長に感謝すべきだと言つて居られました。

兎に角、幸ひにも無事お迎へする事が出来まして、陛下には甘露寺侍従、本庄侍従、武官長、宮内大臣等を従へさせられ、御座所に入御あらせられました。時間の關係上、直ちに私は單獨拜謁を仰せつけられ、何時もの通り、まことに麗しき龍顔を間近に拜する事が出来、深き感激に打たれました。侍従の方から單獨拜謁者の名簿を差上げまして、私の次に菊地實業學務局長が御拜に伺ひますと

陛下には拜謁者の名簿を御指でお指しになられ、その名と人物とを
お比べになつて居られました。

單獨拜謁の次に、列立拜謁がありました。ところで、私が出口の所

に御待ち申上げて居りますと、町村行幸主務官が蒼白な顔をして、大失態！大丈夫ですかと云はれました。私は本校に於て、何か畏れ多い失態を演じたのであらうかと、一時心配致しましたが、更に語を續けて、此の學校は大丈夫ですか、全部準備が出来て居りますか、列立拜謁者は並んで居りますかと尋ねられたのでした。私は大丈夫ですと答へましたが、實はひや／＼したのであります。列立拜謁の先生方が果して並んで居りますかどうか、誠に心配に堪へませんでした。その中、陛下には侍従の御先導にて、列立拜謁室に御出ましになり、暫くして、先生方が室から一緒に出て來ましたので、私は始めて安心致しました。

陛下が御座所にお歸り遊ばされてから、私は三分間の豫定で、學校の現状を奏上する事になつて居りましたが、三分間の豫定で作製しました奏上文を、數回の練習で二分半に短縮して讀終る準備が出来て居たのであります。ところが、どう云ふものか御前で奏上文をボ

ケットから取り出しましたが、之を讀上げる氣になりませんでした。そこで、念頭に浮びましたことを加へて言上する事に致しました。奏上文の内容はすつかり暗記して居りましたが、それに種々の事柄を挟み、卒業生の地方別等迄申上げましたところ、一々御興深げに御領き遊ばされました様に拜しましたので、私は嬉しさのあまり五分間位申上げてしまひました。その時は、文部大臣も御側に立つて居られました。

このやうに、陛下の御前で本校の内容を講演口調で奏上致しますことは、自分と致しましても、此の上もない光榮な事であり、ますので、恐懼の中にも熱誠をこめて奏上致しました。果せる哉、後に文部大臣から實に堂々たる大出来であつたと讃められ、又侍従にもほめられ、稀にみる出来榮えてあつたとの事であり、ます。階段の下に居られた太田代先生、菊地局長にも聞えましたそうで、何一つつかへる事もなく、全く板に水を流すが如く、我乍ら流暢な出来と思ひました。

奏上が終つて、室外へ出て御待ち申上げて居りますと、町村主務官が「御出まし」と云はれました。用意を致して居りますと、陛下には出御遊ばされましたので、御先導申上げますと申上げて御案内申上げたのであります。

御覽の通り、親しく陛下の御側近く私は奉侍するの光榮を擔ひましたので、校内御巡覽に就ての御模様を、只今から申上げます。第一に御願ひして置きますことは、陛下の御手を觸れさせ給ふた品物や、特に御目に留めさせられた品物は、大切に御保存願ひたいことであります。

先づ、先生方の研究作品の部屋へ御案内申上げました。岩本先生の染料の褪色についての研究を、御感深げに御覽遊ばされました。青緑の色で染めましたものが、光線によりまして、この様に褪色致しますので、これを防ぐ方法を研究致して居りますと申上げますと、此處に暫く御立止り遊ばされました。私が次に進みますと、漸く

陛下も次に御移りになられました。岩本氏の光榮は大きなものであります。

次に、吉田先生の異色染の研究に就て申上げました。人絹織物の経糸か緯糸かの一方に加工して、染料吸着の性質を變へ、一浴により、二通りの色を出し得る事を申上げ、なほ、これは内地向織物にも、輸出向織物にも應用し得らるべき旨を申上げました處、陛下には御感興深く、一つ／＼御覽になられました様に拜しました。之も光榮の至りであります。

次に、加賀山先生の兎の毛の染め方についてでありましたが、幸ひ蓋が一寸ばかり開きましたので、私はこれに手を觸れ乍ら、御説明申上げました。私は兎の毛皮を此の如く染め、主に軍用になります事を申上げ、研究者の努力を申上げますと、これも御感興深く御覽遊ばされた様で御座いました。

次に森本先生の白髮染の研究を天覽に供しまして、かつて朝鮮總

督府から、同地に産する白馬を、栗毛に染める方法の研究を依頼され、その実験の爲め、犬をつれて来ては茶色に染めて試験を致しました。處、それが夜中に逃げて困りました。お話を申し上げますと御微笑すら湛へ給ひて、御興深く御聴取あらせられました様に拜しました。それから白馬の栗毛染は成功し、續いて人間の頭髮を染める事に及ぼし、幸に市販の薬品の如く皮膚を犯さず、衛生的にもよいものが出來ました事を、三通りの品により申し上げました所、色はちないかとの御下問を賜りましたので、私は色の落ちぬこと、及び衛生にもよろしき由をお應へ申上げました。

次に、豊田先生の、苛性曹達による絹の精練法について、御説明申上げましたが、一々御領きになり、御聴取を賜りました。昔宮廷の御料に供しました布地のサンプルを御覽に供し、これ等が灰汁で精練されましたこと、昔の人々は、理窟を知らずして、理窟に合うた事をなして、居りました事、苛性曹達による精練が、耐久力を増す事等を見

本により、比較御説明申上げました處、何に御興味を覚えさせられましたか、破れた布地の見本を、暫くは御覽になられて居られました。

次に、森先生の廻轉の速度を遠方から計る装置、これは職工にも容易に用ひられ、非常に便利で、有効であります旨言上致しました處、之も親しく審に御覽を賜りました。次に、之も森先生の、絲の均等度を檢する装置を御説明申上げ、最後に曲線圖面によつて、ガス絲の絲斑を御覽に供しました所、少なからず御興味を引かせられた御模様、に拜しました。

次に、相田先生の摩擦試験機を天覽に供しました處、何と御思召なされましたか、摩り切れた右の方の見本を、御注意深く説明を御讀みなされながら、暫く御覽を賜りました。何か御考へがあらせられました事と、拜察されます。

次に、根岸君の管巻機械も、その機構を充分御承知あらせられました御模様で、之も詳細に御覽を賜りました。



その次に飯野、大山兩氏の、シミレーン絲とその製品のサンプル四つ、これについて、後に工場でも色々御説明申上げましたのですが、ここでは畏れ多くも、右御手袋を半ば程御取り遊ばされ、織物見本に御掌をお觸れ遊ばされたのであります。之は右から二番目、毛布との間にあつたものであります。毛布に就ては、恐れ多い事でありました。が値段まで申上げました。水には強いのか、との御下問を賜りました。水には相當耐へます旨御應へ申上げますと、もちはどうか、と仰せられました。弱い點が多々御座いますと申上げました。が、非常に畏れ多い事でありました。

次は、島田先生のゴム硫化促進劑であります。之は日本では三十通り程用ひられて居り、殆ど外國から輸入されて居りますが、ここにあります品は充分外國品に劣らぬものでありますとの旨を申上げました。最後の二つの品には、特に目を留めさせられました様に拜しました。これも暫く審に御覽を賜り、玉歩を止めさせられました。



た。私が急ぎ申上げますので、漸く玉歩を運ばれました。島田先生の光榮は大したものであります。

次は、伊澤先生の精練劑の研究品であります。これは原料として殊に南洋に産するパイヤを用ひたものであります。これもよく御覽を賜りました。練つた絲の比較には、特に御感興を覚えさせられました御模様、拜察されました。

次に、田村先生の室内保温装置の建築模型を、御前に運びまして、材料に二割の餘分のものが要りますけれども、保温に三割の利益のあることを申上げますと、御興深く思召されましたか、暫く御目を留めさせられました御模様、御座います。

最後に吉岡先生の蟻であります。之は私の専門を離れ、陛下に於かせられました。特に御興味を有せられます方面でありますから、どのやうな御下問を賜るか知れませんが、實は吉岡先生に、室隅に控へて居て戴いたのであります。眞に、生物學に御造詣深

く涉らせられます事は、此の一事でも拜察出来やうと存じますが、それは、私が顕微鏡にウロコ蟻が載せて御座いますと簡単に御説明申し上げますと、陛下には、直ちに備付の顕微鏡の調節螺子に御手を御觸れになり、御覽遊ばされました事で御座います。これだけでも陛下の生物學御研究の御一端を窺ふ事が出来やうかと存じます。此室内の時間が相当かかりましたので、私の心は急ぎました。後に聞きますと、この室での御豫定の五分は、十何分にもなつてしまひましたのでした。

その次は、桐生織物同業組合からの陳列場で御座いますが、ここでは畏れ多い事ながら、これら桐生地方織物の大半は、本校の卒業生がその製造に與つてゐます旨、言上致しました。實はこの部屋は御素通して戴く事に、豫定して居りましたが、陛下の御目に留りましたので、若干の御説明を申し上げます。階段を御降りになりまして、御廊下での御途中、この御通路に敷きました敷物は、南洋委任統治領

から産する、カラオと云ふ植物の纖維を用ひ、本校で指導致しまして斯の如く製織せる旨申し上げます所、御興深げに御首肯を賜りました、有難い事で御座います。それから、ずつと廊下を御通りになり、色染化學科の間をぬけまして、應用化學科の方へ進ませられたので御座いますが、途中色染化學科中庭の、染料植物について御説明申し上げます。御感興深く御覽になられました様に拜しました。

應用化學科に通ずる廊下が非常に長くありますので、私は御退屈にもやと存じましたので、途中でいろ／＼申上げ、本校が就職率非常によろしく、來春の卒業生に對しても續々申込みがありまして、中にはお断りして居る向もあります由、言上致しました所、強く御頷き遊ばされました。

そのうち應化科へ参りましたので、これから應用化學科を御案内申し上げます旨、申上げました。先づ物理化學實驗室でありますが、此處では、二三の學生が實驗して居りました。

次に、平田先生の研究室を御目に留められつゝ、島田先生のゴムの部屋へ入御あらせられました。私は實は、畏れ多い程、時間をとりになつて居られますので、始めての部屋では、大體を御説明申上げ、次の部屋にては二つの代表的の實驗装置を御説明申上げました處、終始御領き遊ばされました。それから、大豆粕からとれますエボナイト代用品について御説明申上げ、滿洲からの大豆粕の利用品であります旨申上げました處、之には特に御興を御惹かれの御様子で御座いました。

學校での御豫定が四十分になつて居りますし、縣廳からも三十五分乃至四十分以内では是非すませるやう注文もありましたので、私は心が急くのでありますが、陛下に於かせられましたは、大豆粕から造つたエボナイト代用品を、丁寧な御覽遊ばされて居ります。そのうち漸く玉歩を御移しにされましたが、扨従いたして居りました宮内大臣が、同じ様に興味を惹かれたらしく、丸い輪の様なもの

左にあつた方の見本を、手にとつて見て居りますと、陛下には、突然後へ御戻りなさいまして、その右の方の見本を御自ら御手にとらせられ御覽遊ばされました。これは島田先生の非常な光榮であります。右の方のは粗相のない様、大切に御保存願ひます。

陛下にはつくづくと御覽を賜はりました後、これは何に使へるかとの御下問を賜りましたので、私は電話の受話機等、凡てエボナイトの代用として用ひられます由を申上げました處、御首肯を賜りました。その隣りの海軍省の依頼によります、軍用防水布のゴム變質防止の研究を御覽に供し、その中の古くなりまして、ひどくクシヤクシヤに接着してしまつて居ります見本を取り出して御覽に供し、普通の方法で造りましたものは古くなりまして、斯様になりまして申上げました處、御微笑を湛へさせられ、特に御興深く御覽せられました様に拜察致しました。次に、ゴム硫化促進劑であります。それから、卒業生の働いて居ります工場の寫眞等も御覽に供しました。何

分卒業生の名前とか、工場の名等、宣傳がましい事は申し上げられませ
るので、只本校の卒業生五六名と、助手であつたものとで經營して居
りまする工場と云ふ事で、寫眞を御覽に供し、御説明申上げました。
その時、光榮な事には、其處に置いてありました島田先生主宰のゴム
の雜誌を御覽になり、表紙の目次を御讀みになられました様に拜し
た事であります。あの雜誌は非常な光榮であります。

少し急がねばなりませんので、ゴム屑から石油を製造する研究を
簡単に申上げ、一朝事ある場合には、ガソリンには困らぬ旨申上げま
した處、非常に御興深く拜せられました。又御側近くに居りました
侍従でありましたかも知れませぬ、海軍士官の様な服を着て居りま
した方が、非常に熱心に見て居り、感心して居りました。先を急ぎま
すので、向側に廻つて島田軍手を御説明申上げ、特に上海、北滿事變に
は、之が幾分使用されて好評を博しましたことを申上げますと、非常
に御感深さうに、御覽を賜りました。

これでゴムの部屋をお出ましになり、中島先生と石井先生の部屋
の前を御通過あらせられ、それから次は定量分析室でありますが、
陛下は此處で一步室内に玉歩を進められました。私は室外に御待
ち申上げて居りました。私は此處は定量分析室で、實驗の學生は二
年生でありますとの事を申上げました。次は天秤室でありますが、
陛下には此の様な所まで審さに御覽遊ばされます。これは定量分
析に必要な重量を秤りまする天秤で御座いますと申上げました所
陛下にはよく御承知であらせられるので御座いますが、御領き遊ば
されて御覽になられました。

次に、下山先生の研究室を外部から御覽になられて、アスファルト
道路を紙の工場へ向はせられたのであります。その途中、餘り纖維
素の研究室ばかり御覽に供しましたので、本校では纖維素ばかり研
究して居ると思召されては、畏れ多い事と存じまして、本校では纖維
素の他にも、色々の研究を致して居りますよしを申上げました。

此處では、丁度活動寫眞の準備も出来ました様子なので、餘り申上げず、ゆつくり御案内申上げて紙工場の前に参りました。そこでこれから紙の工場を御案内申上げますとの旨を申上げました。

紙の工場へ這入りましてすぐの處に積んでありました、キングの古本でありましたか、あの古雑誌を原料にして斯くくにしてこの紙(桐華紙)を私は雑用紙と申上げましたが、を造りますと御説明申上げ、黄蜀葵の根の汁を用ひて抄き上げて居りますとの事を、御説明申上げました。陛下にはよくこれも御存知で入らせられたのであります。そして、そこに積んであつた製品の、一番右の、向ふむきになつて居りました、桐生高等工業學校のマーク入りの桐華紙の束を御覽に供しまして日本中に販賣されて居ります旨を申上げました。それから、塵紙を切つて居ります機械、あの如く粗末なものであります。この簡単な装置によつて、あの大きな巻いてある塵紙を切斷して居ります旨御説明申上げ、油脂の工場にお進みを願ひました。

ここでは、伊澤先生が居りましたので、よく御承知でせうが、

陛下にはシャボンの事なども、詳しく御承知であらせられたのであります。左側の方を御覽に供したいと思ひましたので、右側の方は天覽に供する事が出来なかつたのは遺憾でありました。供奉の方も聞へてゐましたので、折角でしたが、御目に留りませんでした。左側をずつと御進みになりシャボンの型打の所で、陛下が御立とまり遊ばされましたので、私は誰であつたか忘れましたが、そこにゐました學生に、「一つ入れて見たまへ」と言ひましたのですが、その學生が固くなつてゐましたせい、大變うるたへた様でありましたが、やつと型に入れて、これを押し付けさせたのであります。ところが、その踏板が誠に畏れ多いことではあります。陛下の直ぐ御前にありましたので、粗相せねばよいがと心配してゐましたのですが、横の方からやうやくこれを踏んで、シャボンの型打が出来たのであります。陛下には御満足のやうに拜せられました。このシャボンは大切

に仕舞つておかねばならないと思ひます。

次に手漉の桑紙の所ですが、楮三極は陛下には印刷局に成らせられてよく御存知で入らせられることと思ひましたが、本校のは印刷局のところがつて、桑が材料でありますから、私は桑の皮はそれらにおとらないものであり、生産費も低く、一萬枚の紙による農家の利得は十七圓位になり、而も材料は蠶にやつたあとの、焼きすてる桑を利用致しますので、方法宜しきを得ば、農村救済の助けになりますよしを申し上げます。所御感興極めて深く思し召された様に拜しました。それから私はそこにあつた、本校の卒業證書に用ひやうとして抄いて置きました。學校名のすかし入りの紙を手にとり、すかして御覽に供しました。あの一番上の紙は、光榮の紙であります。次に、鈴木君の研究を御覽に供したいと思ひましたので、これを御説明申し上げます。これは人絹の屑をとかして、再び引き出すのでありますが、あの臭氣の強い中に、玉歩を止めさせられ、玉體を御屈めになつ

て近附かせられ、暫く天覽を賜りました事は有難い事であります。

次に奉拜場であります。なにしろ澤山の學生が集つて居りますので、學生兒童約一萬七千人が、奉拜に參列して居ります旨を奏上いたしましたところ、御領き遊ばされましたやうに拜しました。さう申し上げました時、奉拜場では既に氣を付けの號令がかかつてゐたものか、極めて靜になつてゐましたが、陛下の御態度が御變りになりました。私は運動場の野球のネットが仰山で、御目に障りますかと思ひましたので、本校は野球には相當力を入れて居ります。東北地方ではいつも勝ちながら、關西へ行くと、負けて參ります旨を奏上いたしました。陛下には、スポーツに御興味を持たせられますよしを洩れ承つて居りますので、或は何事か御言葉を拜する事が出来ますかと、御期待申上げてゐました所、奉拜場の方に「氣を付け」の號令がかかつてゐましたことに御氣付の御様子で、何も仰せられず、野球の事の奏上には、只御領き遊ばされたのみで、嚴然たる御態度を持せ

られました。實に嚴肅なる大御心の御一面を拜し、私は全く恐懼の至りに感じました。

奉拜場では、本校職員學生の外、桐生市を初め山田、新田、邑樂、勢多等の諸郡の小、中學校及び女學校生徒一萬七千人が、眞心こめて最敬禮を捧げましたが、陛下には長くも御擧手の御答禮を賜ひました。それから、一同赤誠こめて聖壽萬歳を三唱し奉りました。

それがすんで、次に機械科へ御先導申し上げ、そこでこれから機械科であります旨奏上いたしました。ずつと参りました右の方では鑄物と鍛冶をやつてゐましたが、火造りを致して居りますので、危険でありますから、御案内申し上げます。左の方の工作機械の工場に御案内申し上げます。ここでは、左側の方は一々御説明申し上げます。孔を鑽ける機械や、ネヂを切る機械を順次御覧になり、萬能といふ字が所々にありますので、御下間が出てはと思ひまして、簡単に御説明申し上げます。この工場では、私は

右側だけを御案内申し上げますが、陛下は非常に注意深く在はしますので、左側の方まで御覧を賜はりました。

螺旋錐を作つてゐる所には、特に御目を留めさせられましたので、その一つをとつて、たしか右から二番目であつたと思ひますが、御覧に供しました。左側の方では、二年生が鋸かけをしてゐましたので、私は二年生が機械を扱ふ前提として、鋸かけを練習して居ります旨、御説明申し上げます。陛下には審さに御覧遊ばされて居られました。

次は金剛砥石であります。これがスパークを出してゐましたので、特に御目に留まつたやうに拜しましたので、これは仕上げの磨きをかけて居る所であり、ますよしを申し上げます。それから、二年生の製作しました機構のモデルを御覧に供したのであります。澤山あつたので、左から三つだけを廻轉して御覧を願ひました。

次に、小坂君の作つた旋盤がありました。これは小型ではありま

すが、充分實用になりませう旨申し上げました。それから三年生が一緒になつて製作した旋盤も、御熱心に御覽を賜り、暫し御立とまり遊ばされました。この部屋に電気熔接の装置が並べてありましたが、此處では青い眼鏡が御目に留まつたらしく拜しましたので、陛下にはよく御承知で入らせられる事で、畏れ多い事とは存じましたが目を痛めない爲に使用して居ります旨申し上げました。

表へ出まして、次に紡織工場へ御案内申上げましたが、先づ莫大小部では、シャツを編んで居ります機械に特に御目にとまりました。サンプルについては、横濱の滞貨生絲の利用について、元の農林大臣、今の内務大臣から豫て研究を依頼されて居たのでありますが、それを莫大小に使用して居ります事を、御説明申上げました處、御側に扨從して居りました内務大臣も、あれですかと満足の様子でありました。次いでシミレーンの工場に御はいりになります前、陛下には陳列してありました靴下に御目を留めさせられ、暫く御立止りあらせ

れて、説明書を御讀になつて居られました。

シミレーンの工場では、私が、實習中の學生に、原料を少し持ち來る様と申しましたが、餘り固くなつて居りました爲か、中々取つては呉れませんでした。やうやく渡して呉れましたので、この原料を御覽に供しました。それが截断機で一時ばかりに刻まれ、それから順次絲に紡がれます次第を、御説明申上げつつ、御案内申上げました。

次に、機械の工場に御進みを願ひ、根岸君發明の管卷機械と、普通の管卷機械とを比較して、普通のものには絲がケバ立ち易くなる缺點があります。此方のは非常に成績がよろしきよしを申上げ、前に本館二階で御覽を賜はりしものの比較に就き更に御説明申上げました。その内氣がついて見ますと、陛下には態々左の方の織機にも一覽を賜りました。その突當りにありました「蓆織機」は、御興を惹かせられるものと思つて居りましたが、果して御近々に、御立寄遊ばされたので、機械を運轉して纖維が一本づつ入つて行く有様を御覽に

供したのでありますが、私が御邪魔になりましたと、少し腰をかがめて御覽を願ひましたところ、御興深く思召されました様に拜しました。其次に陳列されて居ました織物には、特に御目を留めさせられ、ホームズパンは、群馬縣種畜場で昨日天覽に供し奉りましたので、よく御覽ぜられて居ります事と思ひまして、この様な製品では、づかしく、御素通りに願ふ積りで居りましたが、それにも拘はらず、親しく御手を觸れさせられました。拜察致しますのに、これは群馬縣種畜場のものと、本校のものを、御比較遊ばされたのかと存じます。

次で色染化學科に入御あらせられました。此處では、先年天覽を賜はりましたる福井高工のと大同小異でありまして、特に變つたものもありません旨申上げて、御案内申上げましたが、緋絲捺染機械には、御興味を持たせられました様に拜しました。それから人絹織物のテンションレス、デツガーについては、張力のかからぬ様にして、染

着を完全にする機械であります旨を御説明申上げ、日本にても、斯様な機械を安く作つて、供給したき希望を奏上致しますと、御領き遊ばされました。

手拭染には特に御興深く思召された御様子に拜しました。それから、出来上つた大演習圖案の中型染を御覽に供しました。型紙の大きさみ方を御説明申上げ、作業中の學生にモスリン友禪の型紙を一と送り送らせ、型付の實際を御覽に供しました。次のガス焼きの室では、左側に並んで居ました、三越からの注文で造つた、織物の外部を巻く、文庫布が御目に留つたのではないかと存じまして、御説明申上げました。

次に試染室でありましたが、此處では、前列の學生ばかりでなく、豫期致しました通り、後列の方の學生にも、一々御目を注がせられました。まことに有難い事であります。全體の學生に光榮を願たせ、學事を御奨励遊ばさるる大御心の程、拜察するだに感激の極みであり

ます。

最後に越坂君の所で、私が「何をして居ますか」と尋ねましたら、何か答へた様でありましたが、餘りに聲が低いので、私にはよく判りませんでした。幸ひ私が承知して居ましたので、兎に角、私は糊の粘度の試験をして居りますとの事を申し上げました。

此處から廊下にお出ましになり、本館の方に向はせられたのであります。途中で突然御下問を賜りました。それは、人造纖維は結局綿糸と同じ様になるかと仰せられたのであります。私は早速はいなります。なりますが、異なる點がかなり御座ります。人造絹糸は光澤があり過ぎます。それに力が弱う御座ります。と申上りました。陛下には重ねて、人造絹糸が弱いのは、色々薬品を使ふからでは無いかと仰せられましたので、私は、左様で御座ります。それに綿糸は纖維が長いのであります。人造絹糸の原料は、木材のバルブからつくりますので、單纖維の長さの點が元々違ひます旨を奏上

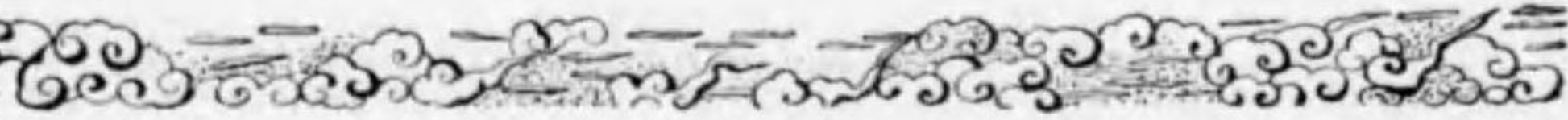
いたしました。

それより本館に歸りまして、階上御座所へ御案内申上げ、やがて玄關に、御恙なく還御を奉送申上げる事が出来ました。

申すも畏き極みであります。が、まことに陛下には一面親しみの深い御なつかしく感ぜられます。御方で御座いまして、一天萬乗の君に在しますけれども、自然と頭の下がる御威光の外に、何か或る温い感じが、私の腦裏に深く印象せられて居ります。御徳が自然に備つて入らせられるのであります。私はもう少し御ゆつくりして戴き度かつた様な感がしてなりません。

それから諸君の御承知の通り、私は自動車ですぐ扈從申上げ、西小學校で自動車を捨て、駆足で停車場にまゐりました。間もなく市長も見え、やがて新川球場に消防組の御親閲を終へさせられ給ひ、御無事に足利へ向はせられる御車を奉送申上げました。

翌日は、高崎乗附練兵場で御親閲がありまして、この日再び



陛下の御英姿を、間近く拜するの光榮に浴しました。學生諸君は、よくやつてくれました。上出来でした。ある側近の方からその批評を伺ひますと、畑師團長は非常に賞められて高等専門學校學生は實によく出来たと云はれたとの事でありませう。又陸軍省から来て居た人も、高等専門學校は非常な出来だと賞めて居りました。諸君の眞劍味がよく判りました。ただ長岡高工との間の接觸の個所が、幾分不揃であつた様に思ひましたが、あれ位は止むを得ませう。

御親閱の濟みました其の晩に、御陪食を賜つたのでありますが、私に行在所に、六時に參入を許されまして、六時半から光榮に浴したのであります。其の間、大勢の方に會ひましたが、文部大臣は非常に喜ばれ、桐生の學校は上出来であつた。嘗つてない奏上だつた云々と、餘り賞めすぎた言葉なので略しますが、全く堂々たるものであつた。今晚伊香保で待つて居るから來いと云ふことでありませう。又内務大臣は、大變得る處があつた。又改めて拜見さして貰ひ度いと云



はれ、畑師團長も面白かつたと云はれて居ました。

六時二十七分頃に、縣廳の元の會議室が御陪食室に當てられ、其處に私達は參入致しました。其處には、コノ字なりに席が設けられてあつて、テーブルの中央が玉座、玉座の御前が宮内大臣、鐵道大臣、侍從武官長等で玉座の右は内務大臣、左が文部大臣、文部大臣の隣りに私は席を賜はりました。

六時半 陛下入御、御陪食の榮に浴しました四十名程の者は、産業功勞者、自治團體功勞者、教育功勞者等でありましたが、一同起立致しまして、陛下を御迎へ申上げました。

陛下には御着座遊ばされます際に、珍らしく天氣が續いたねと仰せられました。宮内大臣が、まことによく續きましたるよしをお應へ申上げました。次で、文部大臣が着席致しますと直ぐ

陛下は爽やかな御聲で、桐生高等工業學校は色々な事をやつて大變成績を擧げて居る。大變いい様だね、もつと見たかつたが時間が

無かつた。との有り難い御説を賜はりました。

文部大臣は此處に校長が居ります。あの學校は、校長が身を以て範を示し、大變力を入れて居りますので、成績がよく、思想問題も無事であり、ますし、就職も宜しう御座いますと申上げますと。陛下は昨日校長がさう云つて居た、大變いいさうだね。との御言葉を賜はり、更に、文部大臣は少しはあちこちの學校を見たか。と御尋ねになられました。これは洵に味ひ奉るべき御言葉だと存じます。同時に本校の無上の光榮であります。二十分も御豫定時間を超過し、六十四分も本校内の御覽を賜はり、尙まだ見たかりしとの御言葉を拜したのであります。文部大臣は、そつと私の方を向かれて陛下には桐生高工に對し御印象が大變深く入らせられる、と云はれました。全く恐懼措く能はざる次第であります。

その中に御料理が運ばれました。陛下には御手さばきもあざやかに掛りの者の運ぶ大皿から、御自ら御料理を御取りになり、御召上

りになつて居られました。私は感激を極め、中々食べられませんでした。萬一何か御下問でもありました時に、口をもぐぐ致して居りました。は相濟まぬ儀でありますので。陛下が他の方と御話遊ばされて居られますうちに、急いで少しづつ戴くやうな譯でありました。全く何事の在しますかは知らねども、只何となく、有難さに涙が出て仕方がありませんでした。

側近の大臣達と色々の御話の中に、縣廳の庭に變つた松の木のある事が話題に上りますと。陛下にはそれを御聞取遊ばされ、あれは遺傳から來るので、劣性遺傳の集りであらう。と仰せられ、メンデルの遺傳分配の法則を御引用になつて、御説明を賜りました。あの四五十名の陪食を賜りました人達の中に、メンデルの分配法則を辨へて居る者が、果して居たでありますか。畏れ多い事であり、ます。又、釣の話が出まして、誰かが宮内大臣の釣の好きなことを申上げますと。陛下には、宮内大臣は理論家だね。と仰せられ、一同大笑

致しました。なほ 甘露寺は本は何でも持つて居る、釣のことからとも仰せられました。

話題がスポーツの事に轉じまして、赤城へお登りになられました。お話になりますと 陛下は 赤城山はモ少し高ければいいね、少し物足らんね、然しあれを駕籠で行つた人があるよ と宮内大臣(當日駕籠にて御伴したる由を御からかひ遊ばされて、又一同大笑致しました。そしてまた こんな忙しい時には、たまに山へ登ると疲労がなほつてよろしい との御言葉がありました。それ程までも軍務、御政務、行幸等御多端にわたらせ給ふのでありました事を拜察致しますと、まことに畏れ多い次第であります。

次に、スキ一の御話が出てまゐりますと 陛下には 私もやるよと仰せられました。鐵道大臣が、何地にて遊ばされますか、と御尋ね申上げますと 私には外へ出られないから、内でやつてゐる との御言葉で御座いました。全く恐懼の至りであります。伺ひまする

と、宮中の御庭に雪を積んで遊ばされますとの事で御座います。下の、ろくろく仕事も爲し得ない若輩が、スキ一だ、登山だと云つて、自由に飛びまはつて居る事を考へますと、誠に申譯なき事であると存じます。

なほ詳細は略しますが、將棋の話、體操の話と暫くはいろく興味深き御話が續きまして、實に御機嫌極めて麗はしく拜しました。

次に、別室で御茶を戴きましたが、陛下にも御出ましになられ、畏くも御起立のまま、誰れ彼れに御會釋を賜ひました。私も御前に伺候いたしましたして、昨日(十六日)の御禮を言上致し、昨日はまことに有難う御座りました。陛下にはよく御承知で入らせられますことを、くどくどと御説明申上げまして、誠に恐懼の到りで御座りますと言上致しました處 陛下には 否色々面白い成績を擧げて居る様だね との有難い御誂さへ賜はりましたので、今後、尙一層研究致しまして、より以上の成績をあげ 聖旨に添ひ奉るやう致したく存じます。

と奏上致しましたところ、強く御首肯を賜りました。
やがて八時半頃、陛下は別室に入御あらせられ、私達は面目を施して退出致しました。

以上述べました様に、本校今回の出来栄は、誠に上々の首尾で、内務大臣からは、もう一度行きたいと云はれ、畑師團長からはよく出来たと賞められ、宮内大臣には大變面白かつた、あの大豆粕がゴムになる研究は面白いと云はれ、町村行幸主務官は、貴君の學校でうまく行ったのでよかつた。御上には大變御感興が御深かつた様に拜しましたと繰返し禮を述べられ、甘露寺待從からもお讚めに預りました。それから、文部大臣に招かれて、伊香保へ行きましたのですが、大臣は、まだかくと待ちあぐんで居られた處なので、大變喜んで迎へてくれました。そして又繰返して本校の事を讚めて戴きました。傍の菊池局長は、平素の訓練がかう云ふ場合に出るものだと言はれました。

實に本校今回の光榮は、空前絶後の事でありまして、長く燦として校史に輝くべきものでありますが、單に光榮に酔つて居ただけでは申譯ないのであります。

私達は深く、心に誓つて、此の光榮を汚さぬ様、心懸ねばなりません。

〔筆記責任者 應化二吉田晋、色化三香田武夫、應化三吉井一夫、時報主任周東隆一、卒業生鈴木賢三、教授吉田善一郎、同大澤治作〕

感激に燃ゆる職員、學生及び卒業生

感泣あるのみ

教授 豊田 今吉

聖駕を迎へ奉り、職員も學生も咫尺に候して、天顔を拜し奉ることが出来たのは、一生忘るゝことの出来ない昭和九年十一月十六日

であつた。科學に御造詣深く渉らせらるゝ陛下には、御熱心に職員の研究品學生の製作品並に實驗實習の狀態に御目を留めさせられ、又學校長の御説明に對して一々御耳を傾けさせ給ひしことは、全く實業教育御獎勵の大御心の發露に依るものと恐察せられる。此光榮に浴したるもの、誰か感泣、報恩の至誠に燃えないものがあらう。當日扈從せる松田文相は、「外國の長を採り、我が短も補ふことは必要であるが、徒に西洋の學問に捉はれてはならぬ、須らく、我が國獨特の教育精神に依つて進むべく、同時に職員は身自らの人格を以て學生を訓育しなければならぬ。」と我々職員を激勵された。述べられた言葉は勿論目新しいとは思はれぬが、文相の國家教育に對する深く且つ強き熱情に動かされた。然り教育は正しく熱也である。誠なき所に眞の熱なし、虚偽の熱は熱にあらずして秩序の破壊である。元來教育の事業は地味であり、其の効果は必ずしも表面化するものでない。又表面化するにしても相當の時日を要する。身を

教育に置くもの、見えを捨て、實質的に熱と誠を以て進み、廣大無邊なる聖恩の萬分の一なりとも酬ひ奉らん事を期したいものである。陛下の奉拜所を御退出遊ばされた後で御野立所の白布の上には、御靴から落ちた小砂が僅かばかり散らかつて居つた。小砂一粒なりとも得たいと集る人こそ懐しい。押し合つて辛うじて手にすることを得た小砂一、二粒を頂きつゝ、白紙に包み、蝦蟇口に納むるのを見たとき、此の精神こそ正しく我が皇國を支持する眞の力なりと悟り、快禁する能はざるものがあつた。熱なくして教育なく、熱なくして國家は興らぬ。國家を離れて教育は存在しない。教育する人も教育さるゝものも、一般人士も此の事丈けは忘れてはならぬ。教育勅語の中に、此れ我が國體の精華にして教育の淵源また實に此に存す、と仰せられてある。意味深遠なり。此の精神なくして我が國家に於ける教育は成立たぬ。徳富蘇峰先生は元旦の試筆として億兆心を同じくし

て國難を靖んずと書かれた。非常時の今日我が國民として、我々の歩むべき現實の道德を表示するものである。今や漠然、天の一角を瞰んで神に呼びかけた丈けでは、現實の日本が有する全世界に向つての使命を果すことは出来ぬ。現實は現實なり。先づ目指すものを目指して、而も之れが實現に最大の努力を拂はなければならぬ、之れが現實の善であり、現實の道德である。又 聖慮を安じ奉る唯一の途なりと確信する。

列立拜謁の光榮に浴して

教授 杉 浦 二 郎

今上陛下未だ 皇太子殿下に涉らせられました頃、御行啓の折など屢々路傍で拜し、又 攝政宮にあらせられました時分にも、二度御鹵簿を拜しまゐらせたことはありましたが、天皇の御位に即かせ

られました後は、遂に拜み奉る機を得ませんでした。然るに本年の陸軍特別大演習御統裁の後、本校にも御臨幸あらせらるゝ旨仰せ出され、其砌我々に列立拜謁を賜はるとの趣を承はり、茲に親しく拜し奉るの機を得ますことを喜び且つ恐懼して居りました。殊に列立拜謁には其總代をつとめることになりましたので、舉措動作に些の不作法もあつてはならぬと、朝夕神佛に祈願し、日夜練習を行ひ、只管光榮の日を御待ち申して居りました。

十一月十六日、此の日晚秋の空は高く晴れ渡り、門に掲げた國旗には微風だもそよがず、旭日輝々として真に行幸日和とも申さん、誠に御稜威の程畏き極みであります。先づ我々一同校門の内側に堵列して 聖駕を迎へ奉り、直に拜謁室に入り、二十五名のもの各威儀を正し胸をとゝろかしつゝ入御を待ち奉りました。暫くして侍従の御先導で入御あらせられ、一同の最敬禮裏に玉座に立御あらせられました。そこで恭しく御前間近かに進み出で 龍顔を拜しまゐら

せましたが、あまりの畏さに自づと頭の垂るゝを覺えました。謹んで最敬禮を捧げ奉り、再び頭をあげ得ず、そのまゝ後退して元の席に歸りました。やがて陛下には再び一同の最敬禮のうちに出御遊ばされたのであります。

伏して惟るに、一天萬乗の君にまします御身を以て、我々如き數ならぬ卑しきものに迄も謁を賜はる有り難き大御心、又かゝる御世に生れ逢ひたる喜び、只々感充ちみちて、此の日の舉措に果して誤りがなかつたか、又動作に不作法がありはしなかつたかすら、おぼろおぼろとして更に記憶がないのであります。

聖駕を迎へ奉りて感想の一端

講師 北村 友 圭

草深き賤が伏屋に起臥する身が、龍顔を數歩の間近かに拜し奉り

しさへ光榮この上なき次第であるのに、三步退いて一禮し今一度尊顔を拜し奉らんと頭を上げし折、いとなつかしみある御會釋を賜はり、有難いやらもつたいないやらで感涙更に催された。

感激の涙一入うるほひぬ

御會釋拜し奉りては

扈從の最後に隨ふべく持場を定められた私は、御動靜をよりよく拜し奉るの光榮に浴した。

天覽品についての學校長の説明に對し、御頭を前に傾けさせられいと御興ありげに、うなづかせられ、特にシミレーン製毛布の所では、右の御手袋をおとりになり、觸はらせられ、水に云々とさへ御下問あらせられた様でした。かく研究品に御心を御留めあそばさるゝは學びの道を御獎勵遊ばさるゝ事の御顯はれと拜察された。學校長が一々の研究品に對し説明を申し上げて居るので、時間を氣にし屢時計を出して居られた方々もあつた様でしたが、かくも御熱心に御

傾聴遊ばさるゝのでは、略し奉ることが出来なかつたのだらうと拜した。

かくまでに學びの道をすゝめます

大御心のうれしかりける

約一年にわたりての準備も甲斐あつて、無事にめでたき光榮に浴し得たる吾等は、今陶酔の夢心地にある。然しいつまでも感涙にむせび居ることは眞の感激にはならない。されば吾等はこゝで決然立つて平常の冷静に歸り、己が本務に精進し、國家須要の産業興隆の基礎根柢を築くことに努力しなければならぬ。

感激のゑひよりさめてはげみなん

これぞまことの務めなりせば

(十九日草す)

神護赫々

西田博太郎

大君に捧げし誠通じけむ

神の護りに光り浴みぬる

十一月十六日光榮のあとにて

西田博太郎

身にあまる重き仰せをかしこみて

ことなく濟みし今日のうれしさ

御臨幸をあふぎ迎へて

教授 太田代唯六

□單獨拜謁のありがたさをよめる



うつしみの神にしませばおぼろかに

君がみかげをわれをろがみつ

□つとめおほせる先驅をよめる

まなびやのしるべに立ちて真ごころを

捧げまつれるわれの榮はも

□わが身の幸運をよめる

大君を迎へまつれる今日の日

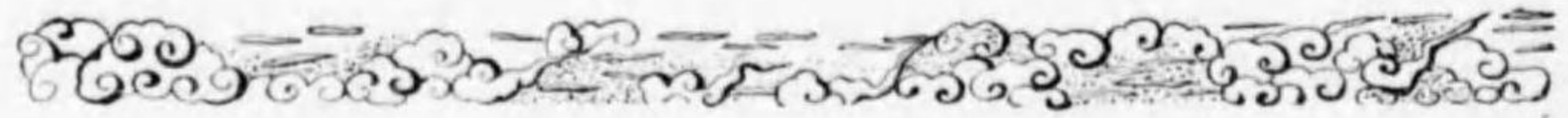
うまれあひたる幸ぞこよなき

聖上陛下を迎へ奉りて

講師 飯野 知次

諸共に誠をこめてすめらぎの

みゆき迎へし今日のうれしさ



今日のみゆきをことほきて

教授 杉浦 二郎

あまさかる鄙にしあれはすめらきを

あふきまつると誰れ思ひきや

ひたすらにいつきまつりて大君の

今日のみゆきをかけてまちけり

天にのみあふきまつりし現神

吾が居る庭にあまり立たすも

御臨幸を追憶して

鹵簿奉迎指揮官陸軍歩兵中佐 藤田 徳治

八百萬神の力のさしそひて

ろぼのむかへぞことなかりける



光榮に感激して詠める三首

教授 長屋敏郎

□ 行幸御安泰を祈る

神殿とらに伏し額つきてやすみしし

我が大君のみ幸待ちぬる

□ 身に餘る光榮に浴して

高照らす我が日の御子を久方の

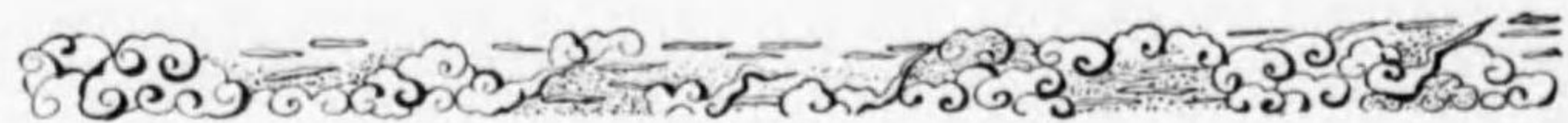
天極あまのつみるまでと仰きけるかな

□ 聖壽萬歳

かけまくもあやに畏こみ百世まで

今日のみ幸を忘れえもなくに

行幸を仰き奉りて



助教授 浅香信太郎

數ならぬ草の下葉の露の身の

今日のみ幸を仰く嬉しさ

畏くもすめらみかとの旗しるし

はしなく仰く今日の嬉しさ

無上の光榮に浴して

教授 小川芳太郎

大君を迎ふる今日の學まなひ舎やの

譽は千代のほこりなるらむ

教へ子の常の作業をつはらかに

みそなはすこそいとまかしこし

行幸を迎へ奉りて

西田校長夫人 壽

子

泰らけき御代しろしめす大君を

むかへまつれるけふのうれしさ

榮えあるけふのみ幸をことほきて

よろこひ集ふよもの民草

行幸を迎へまつりて

高桑教授夫人 菊

子

すめろぎのみこと迎ふと校庭の

松も紅葉もいや映ゆるけふ

吹きあぐる噴水のみづすがしくも

陽にきらめきつみ幸近づく

御車寄に御召車の菊花章

あざやかにして還御まつなり

御親閲今ぞありしか彼方なる

奥の校庭に萬歳のこゑ

恐る恐るかうべあぐればあなかしこ

玉顔向けて會釋を賜ふ

玉砂利にのこる轍のあとふかし

感激にしばしものこのゑ無く

東天を拜しまつりて

群馬縣立桐生工業學校教諭 栗原 忠也

萬歳の餘韻今なほ六合に木魂す。

餘影 眸にあり。

なにごとのおはしますかは知らねあはれかしこくも大なる莊嚴

の相にましますかな。臣、齋戒沐浴、恐懼吟詠、兩明暗、推敲こそ旬日
におよべ、竟にことの葉をなさねどもいとせめては祈願式にものせ
るものにてもと、かしこみかしこみも白さく……

1

あなたふとしな天地の
さわたるきはみ草莽の
桐華原頭かみかぜに
綾羅のにしき飾るとき
菊の御旗や薫るらむ。

2

あやにかしこし細戈
千足のくにのたみ草は
をしへの庭にあなたふと
玉歩めぐませたまふとき

科學の華ぞ咲きそへむ。

3

仰ぎまつればかけまくも
かしこき極みいでましを
御民われらがみどり兒の
こゝろにいのりまつるとき
神も護らせたまふらむ。

五度龍顔を拜し奉りて

同窓會正會員 加賀山 猪三郎

叡聖文武畏くも 今上陛下に於かせられては錦旗を上毛の野に
進めさせ給ひ、親しく大軍を御統裁遊ばさる。皇軍の威氣揚り、庶民
歡喜して迎へ奉る。臣亦陪觀の光榮に浴し、過ぐる十一月十一日、栃
木縣佐野町郊外にて 陛下を迎へ奉る。

此の日天よく晴れ、一點の雲なく、陛下には白馬白雪號に召され、文武百官を従へさせられて、龍顔いとも麗しく、一々將兵に御會釋を賜ひ、静々と戦線を御統監遊さる様、恰も一幅の繪卷物を拜するが如し。やがて^{臣等}の最敬禮に軽く御答禮遊ばされ、秋山河畔を東へと進み給ふ。

折しも橋梁の袂に御待ち申上げたる軍司令官の奏上する軍狀を聞こし召され、一々御領かせられて御聽取遊ばされたり。誠に畏き極みなり。終るや再び東へと進御あらせらる。

越えて十一月十五日。大演習終了直後、地方行幸の第一日に、^{臣等}教職にある者の爲に特に奉拜を御許しありたり。此の日、陛下には前橋裁判所、同中學校に行幸、續いて師範學校にて各種の授業を樹せられたる後、校庭に整列せる縣下五千の教職員に謁を賜りたり。嗚呼何たる光榮ぞ。陛下には君ヶ代の奏樂裡に白布にて覆はれたる御臺に立御遊ばされ、音樂に合して奉唱する奉迎歌を、直立不動の

御姿勢にて御聞し召さる、實に尊き極みなり。今や目前に吾等の大君を拜し奉り、奉唱しつつ何とはなしに涙のはふり落るを覺えぬ。やがて奉唱歌も終り、全員最敬禮の中に還御遊ばされたり。

明くれば十六日、地方行幸の第二日目、畏くも、聖駕我桐生の地に向はせらる。吾等半歳の久しきに互り今日あるを期し、只管此の光榮の日を御待ち申上げたり、今ぞその日來る。秋氣晴朗、日本晴れの上、天氣なり。

聖駕着御の合圖にて間もなく御臨幸、正に御豫定より早きこと三十分、爲めに沿道の市民鹵簿を拜し得ざりし者ありと聞く、誠に恐懼の至りに堪へず。然るに我母校は日頃堅き信念と、至誠とを以て事に當る西田校長の敏腕なる措置により、何等の落度なく、赤誠を披瀝して御迎へ申上ぐるを得たり。之れ實に神佛の加護によるものにして、我校の前途に赫々たる光明を與へたるものなり。^{臣等}前庭に整列して奉迎申上げ親しく御車内の龍顔を拜し奉る。